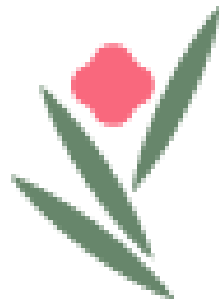


大学院心理学研究科

# 臨床心理学専攻の教育と 授業計画

【授業計画 編】

2019 年度



福島学院大学大学院  
心理学研究科 臨床心理学専攻

## 授業計画 目次

臨床心理学特論 I	渡邊 勉	1
臨床心理学特論 II	佐藤佑貴	3
臨床心理面接特論 I (心理支援に関する理論と実践)	渡邊/木村	5
臨床心理面接特論 II	杉山雅彦	8
臨床心理学研究法特論	杉山/佐藤	10
心理統計法特論	和田裕一	12
発達心理学特論	梅宮れいか	14
教育心理学特論 (教育分野に関する理論と支援の展開)	田辺稔	17
家族心理学特論 (家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)	渡部敦子	20
職場メンタルヘルス特論 (産業・労働分野に関する理論と支援の展開)	茂木積雄	22
犯罪心理学特論 (司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)	生島浩	25
精神医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開)	星野仁彦	28
発達障害児心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開)	板垣健太郎	31
心理療法特論	渡部純夫	33
学校臨床心理学特論	杉山雅彦	36
心の健康教育に関する理論と実践	木村泰博	38
臨床心理査定演習 I (心理的アセスメントに関する理論と実践の意義)	木村泰博	40
臨床心理査定演習 II	渡邊勉	42
臨床心理基礎実習	岸/杉山/佐藤	45
臨床心理実習 I (心理実践実習 A)	渡邊/木村	48
臨床心理実習 II	渡邊/木村	51

心理実践実習 B	岸/佐藤	54
心理実践実習 C	杉山雅彦	56
臨床心理実習	渡邊/木村	58
発達障害児援助実習	板垣健太郎	61
臨床心理課題研究 I	星野仁彦	64
臨床心理課題研究 I	杉山雅彦	66
臨床心理課題研究 I	岸良範	68
臨床心理課題研究 I	渡邊勉	70
臨床心理課題研究 I	佐藤佑貴	73
臨床心理課題研究 II	星野仁彦	75
臨床心理課題研究 II	杉山雅彦	77
臨床心理課題研究 II	渡邊勉	79
臨床心理課題研究 II	岸良範	82
臨床心理課題研究 II	佐藤佑貴	84
臨床心理課題研究 III	杉山雅彦	86
臨床心理課題研究 III	岸良範	88
臨床心理課題研究 III	佐藤佑貴	90
臨床心理課題研究 IV	杉山雅彦	92
臨床心理課題研究 IV	岸良範	94
臨床心理課題研究 IV	佐藤佑貴	96

# 心理学研究科臨床心理専攻 授業計画

2019年度

授業科目名	臨床心理学特論Ⅰ	授業形態・単位数	講義・2単位
		開講年次	1年次
担当教員	職名：教授 ふりがな 氏名：渡邊 勉 わたなべ つとむ	開講期	前期
		授業回数	15回
		期末試験の実施	無
授業に関する主な実務経験と期間		聖マリアンナ医科大学病院神経精神科心理技術員・臨床心理士 (昭和57年1月～平成14年3月) 目白大学カウンセリングセンター相談員 (平成14年4月～平成30年3月)	
社会貢献としての委員会・職等		福島市自殺対策ネットワーク会議議長、日本心理臨床学会代議員	
資格・免許及び所属学会等		上智大学大学院文学研究科教育学専攻博士課程修了、文学修士、 博士(医学)、臨床心理士、日本精神分析学会認定心理療法士、 公認心理師、心理臨床学会、森田療法学会	
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門科目	必修	
公認心理師	専門科目	選択	
臨床心理士	専門科目	必修	
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 メールアドレス：watanabe.tsutomu@fukushima-college.ac.jp		

<b>【授業の概要】</b> 本授業の目標は、心理臨床家としてクライアントの依頼に応じるために必要な基礎知識と対応力を身につけることである。教員自身の臨床事例・素材を使った講義と、受講者が基本テキストおよび文献から理解したことの発表とを組み合わせ、お互いの理解度を確かめながら双方向的にすすめる。	<b>【授業の概要及び到達目標との対応項目】</b>		
	○	A	知識
		B	技術・技能
		C	論理的思考力
		D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	○	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J	多様性への理解力、応用力
	○	K	課題対処力
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力

<b>【授業の到達目標】</b>	<b>【授業の概要・到達目標との対応項目】</b> (受講して得られる力)	
クライアントに関わることの意味と重要性を説明できる	目標	A
心理臨床家の倫理と責任を自覚して事例研究にまとめることができる	目標	I
心理療法の根底にある概念を理解して心理臨床活動に実践できる	目標	K

## 【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 「生きぬく」：心理臨床の原点を考える	資料配布 ディスカッション	

2	心理臨床家のアイデンティティ	資料配布 担当者発表・全体討論	資料学習 担当者準備
3	臨床心理士・公認心理師にかかわる法律と倫理	資料配布 担当者発表・全体討論	資料学習 担当者準備
4	災害における心のケア	資料配布 担当者発表・全体討論	資料学習 担当者準備
5	自殺・自己決定権の問題	資料配布 担当者発表・全体討論	資料学習 担当者準備
6	守秘義務・秘密の問題	資料配布 担当者発表・全体討論	資料学習 担当者準備
7	「治る」ということ	資料配布 担当者発表・全体討論	資料学習 担当者準備
8	生涯発達・サクセスフルエイジング	資料配布 担当者発表・全体討論	資料学習 担当者準備
9	事例研究を読む①	資料配布 担当者発表・全体討論	資料学習 担当者準備
10	事例研究を読む②	資料配布 担当者発表・全体討論	資料学習 担当者準備
11	事例研究を読む③	資料配布 担当者発表・全体討論	資料学習 担当者準備
12	事例研究を読む④	資料配布 担当者発表・全体討論	資料学習 担当者準備
13	事例研究を読む⑤	資料配布 担当者発表・全体討論	資料学習 担当者準備
14	事例研究を読む⑥	資料配布 担当者発表・全体討論	資料学習 担当者準備
15	事例研究という方法論の再検討	資料配布 担当者発表・全体討論	資料学習 担当者準備
<p><b>【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】</b>          目標 A：授業時ディスカッションの発言（50点）          目標 I・K：課題レポートにおける体験に基づく考察（50点）          なお、評価に関する共通理解に則る減点を総合点より行う場合があります。</p>			
<p><b>【教科書】</b> 使用しません。</p>			
<p><b>【参考書】</b> 書名：心理臨床家の手引（第4版）          著者名：鑪 幹八郎/名島 潤慈【編著】          発行所：誠信書房          価格：3,300円(税別)</p>			

# 心理学研究科臨床心理専攻 授 業 計 画

2019 年度

授業科目名	臨床心理学特論Ⅱ		授業形態・単位数	講義・2 単位
			開講年次	1 年次
担当教員	職名：准教授 ふりがな 氏名：佐藤佑貴	開講期	後期	
		授業回数	15 回	
		期末試験の実施	無	
授業に関する主な実務経験と期間	福島学院大学大学院附属心理臨床相談センター相談員 (平成 19 年 4 月～現在)			
社会貢献としての委員会・職 等	福島市教育委員会 特別支援教育指導員			
資格・免許及び所属学会 等	群馬大学大学院教育学研究科修了、修士（教育学） 公認心理師、臨床心理士、小学校教員専修免許状			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門科目	必修		
公認心理師	専門科目	選択		
臨床心理士	専門科目	必修		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60 時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 メールアドレス： sato.yuhki@ fukushima-college.ac.jp			

<b>【授業の概要】</b> 本授業の目標は、オリエンテーションとその基礎概念について学び、臨床心理学的支援の目的とその手段についての考察を深めることにある。これにより、心理臨床家としての臨床観の基礎を養う。 なお、本授業では、心理療法の中でも“子ども”を対象としたプレイセラピーを材料にすることで上記目標を達成する。	<b>【授業の概要及び到達目標との対応項目】</b>			
	○	A	知識	
		B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	○	J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
<b>【授業の到達目標】</b>	<b>【授業の概要・到達目標との対応項目】</b> (受講して得られる力)			
クライアントに関わることの意味と重要性を説明できる。	目標	A		
様々なオリエンテーションの基本的考え方について説明できる。	目標	A		
心理療法の根底にある概念を理解する。	目標	J		

## 【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 臨床心理学特論Ⅰを踏まえた臨床心理学的支援の方向性 “遊ぶこと”について	資料配布 ディスカッション	予習：子ども時代からの自らの遊びについて振り返る。
2	子ども中心プレイセラピー①	教科書：第4章 全体討論	予習および復習 教科書該当部を通読

3	子ども中心プレイセラピー②	資料配布 担当者発表・全体討論	予習および復習 教科書該当部を通読
4	子ども中心プレイセラピー③	担当者発表・全体討論	予習：配布資料を事前に通読
5	子ども中心プレイセラピー④ 遊びながら関わりの実践をする	全体討論 ワーク：プレイルームでの遊び	予習：配布資料を事前に通読
6	精神分析的プレイセラピー①	教科書：第1章 担当者発表・全体討論	予習および復習 教科書該当部を通読
7	精神分析的プレイセラピー② 対象関係プレイセラピー	教科書：第13章 担当者発表・全体討論	予習および復習 教科書該当部を通読
8	ユング派のプレイセラピー①	教科書：第2章 担当者発表・全体討論	予習および復習 教科書該当部を通読
9	ユング派のプレイセラピー②	教科書：第2章 担当者発表・全体討論	予習および復習 教科書該当部を通読
10	認知行動プレイセラピー①	教科書：第8章 担当者発表・全体討論	予習および復習 教科書該当部を通読
11	認知行動プレイセラピー②	教科書：第8章 担当者発表・全体討論	予習および復習 教科書該当部を通読
12	現象学的プレイセラピー①	教科書：第12章 担当者発表・全体討論	予習および復習 教科書該当部を通読
13	現象学的プレイセラピー②	教科書：第12章 担当者発表・全体討論	予習および復習 教科書該当部を通読
14	家族プレイセラピー	教科書：第9章 担当者発表・全体討論	予習および復習 教科書該当部を通読
15	まとめ	全体討論	予習：これまでの資料を通読。
<p><b>【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】</b>  目標 A：授業時ディスカッションの発言（50点）  目標 J：課題レポートにおける体験に基づく考察（50点）  なお、評価に関する共通理解に則る減点を総合点より行う場合があります。</p>			
<p><b>【教科書】</b> 書名：プレイセラピー 14 の基本アプローチ  著者名：チャールズ・E・シェーファー [編著]  発行所：創元社  価 格：3,300 円(税別)</p>			
<p><b>【参考書】</b> 書名：新版・プレイセラピー：関係性の営み  著者名：ゲリー・ランドレス  発行所：日本評論社  価 格：3,500 円(税別)</p>			

授業科目名	臨床心理面接特論Ⅰ (心理支援に関する理論と実践)		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	1年
担当教員	職名：教授 氏名：渡邊 勉 職名：講師 氏名：木村 泰博	わたなべ つとむ きむら やすひろ	開講期	前期
			授業回数	15回
			期末試験の実施	無
授業に関する主な実務経験と期間		渡邊：聖マリアンナ医科大学病院神経精神科心理技術員・臨床心理士（昭和57年1月～平成14年3月）、目白大学カウンセリングセンター相談員（平成14年4月～平成30年3月） 木村：茨城西南医療センター病院臨床心理士（平成24年4月～平成27年3月）		
社会貢献としての委員会・職等		渡邊：福島市自殺対策ネットワーク会議議長、日本心理臨床学会代議員 木村：茨城県境町教育支援委員会教育支援委員（平成25年10月～平成27年3月）		
資格・免許及び所属学会等		渡邊：上智大学大学院文学研究科教育学専攻博士後期課程修了、文学修士、博士（医学）、臨床心理士、日本精神分析学会認定心理療法士、公認心理師、心理臨床学会、森田療法学会 木村：早稲田大学大学院人間科学研究科修士課程修了、修士（人間科学）公認心理師、臨床心理士、認定行動療法士、日本認知・行動療法学会、日本行動医学会		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門科目	必修		
公認心理師	専門科目	必修		
臨床心理士	専門科目	必修		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 渡邊：tsutomu.watanabe@fukushima-college.ac.jp 木村：kimra.yasuhiro@fukushima-college.ac.jp		
【授業の概要】 渡邊は前半を担当し、精神分析的な心理療法を基礎とするテキストを使い、臨床場面で直面する諸問題を扱う。後半では、行動論・認知論に基づく心理療法およびPCAを中心に提起し、さらにさまざまな心理療法を比較し、心理支援への理解を深める。		【授業の概要及び到達目標との対応項目】		
		○	A	知識
			B	技術・技能
		○	C	論理的思考力
			D	文章表現力
			E	表情及び身体表現力
			F	感性及び感動表現力
			G	協働能力
			H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
			I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
			J	多様性への理解力、応用力
		○	K	課題対処力
			L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
さまざまな心理療法の理論について説明できる		目標	A	
支援を要する者の特性や状況に応じて支援方法の選択ができる		目標	C、K	



【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	「クライアントに出会う前」の準備とは？	ディスカッション	復習：議論の振り返り
2	話しを聴く・尋ねる・わからないことを整理する	資料配布 全体討議	担当者準備
3	感情転移	資料配布 全体討議	担当者準備
4	逆転移	資料配布 全体討議	担当者準備
5	抵抗：問題の本質との接触	資料配布 全体討議	担当者準備
6	介入：セラピストの受動性と能動性	資料配布 全体討議	担当者準備
7	夢を扱う	資料配布 全体討議	担当者準備
8	親面接・家族の歴史（家系図の臨床）	資料配布 全体討議	担当者準備
9	行動論・認知論に基づく心理療法の理論	講義 全体討議	復習：議論の振り返り
10	行動論・認知論に基づく心理療法の方法	講義 全体討議	復習：議論の振り返り
11	PCA に基づく心理療法の理論	講義 全体討議	復習：議論の振り返り
12	PCA に基づく心理療法の方法	講義 全体討議	復習：議論の振り返り
13	その他の心理療法	発表 全体討議	発表資料準備
14	心理療法の比較①	発表 全体討議	発表資料準備
15	心理療法の比較②	発表 全体討議	発表資料準備
<p>【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】</p> <p>渡邊：目標 C、K：課題レポート（論理的思考力・体験に近い考察を評価する 100%）  木村：目標 A、K：ディスカッションでの応答 50% 発表のパフォーマンス 50%  なお、評価に関する共通理解に則る減点を総合点より行う場合があります。</p>			
<p>【教科書】 使用しません。</p>			

<p>【参考書】書名：精神分析的心理療法の実践—クライアントに出会う前に— 著者名：馬場禮子 発行所：岩崎学術出版 価格：3200円(税別)</p>	
--	--

# 心理学研究科臨床心理専攻 授 業 計 画

2019 年度

授業科目名	臨床心理面接特論Ⅱ	授業形態・単位数	講義・2 単位
		開講年次	1 年次
担当教員	職名：教授 ふりがな すぎやまさきひこ 氏名：杉山雅彦	開講期	後期
		授業回数	15 回
		期末試験の実施	無
授業に関する主な実務経験と期間	あかつき心理相談研究所 顧問・指導相談員（平成 23 年 4 月～平成 27 年 3 月）		
社会貢献としての委員会・職 等	福島県いじめ問題対策委員会・委員長 認知行動療法学会、常任編集委員、編集委員会副委員長		
最終卒業（終了）学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	筑波大学大学院博士課程心身障害学研究所 修了（教育学博士） 臨床心理士（臨床心理士資格認定協会）専門行動療法士（認知・行動療法学会） 認知・行動療法学会、行動分析学会、カウンセリング学会		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門科目	必修	
公認心理師	専門科目	選択	
臨床心理士	専門科目	必修	
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60 時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 メールアドレス： sugiyama.masahiko@ fukushima-college.ac.jp		

<b>【授業の概要】</b> 本授業の目標は、心理臨床家としてクライアントの依頼に応じるために必要な基礎知識と対応力を身に付けることである。教員自身の臨床事例・素材を使った講義と、受講者が基本テキストおよび文献から理解したことの発表とを組み合わせ、お互いの理解度を確かめながら双方向的にすすめる。	<b>【授業の概要及び到達目標との対応項目】</b>		
	<input type="radio"/>	A	知識
		B	技術・技能
		C	論理的思考力
		D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J	多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K	課題対処力
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
<b>【授業の到達目標】</b>	<b>【授業の概要・到達目標との対応項目】</b> (受講して得られる力)		
クライアントに関わることの意味と重要性を説明できる	目標	A	
心理臨床家の倫理と責任を自覚して事例研究にまとめることができる	目標	I	
心理療法の根底にある概念を理解して心理臨床活動に実践できる	目標	K	

## 【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション	オリエンテーション	復習：不安に関する検討、資料の検討

2	回避と接近「困っていること」の「問題」 講義	困っていることに関する実際の行動の議論	復習：接近と回避に関する見直し
3	不安とは、不安が生じた際に何が起こるか 講義	不安に関する議論	復習：不安と回避行動に関する検討
4	回避行動の問題 講義	回避行動の機能に関する議論	復習：回避の臨床的意味の検討
5	変化する事への抵抗とそれに関する面接者の役割 講義およびグループワーク	模擬的な面接の実施、それに関するグループワーク	復習：面接場面の再吟味
6	不安症 発表	発表と議論	復習：議論の再検討
7	不安症 発表	発表と議論	復習：議論の再検討
8	うつ 発表	発表と議論	復習：議論の再検討
9	うつ 発表	発表と議論	復習：議論の再検討
10	集団の問題 発表	発表と議論	復習：議論の再検討
11	集団の問題 発表	発表と議論	復習：議論の再検討
12	子どもの問題 発表	発表と議論	復習：議論の再検討
13	子どもの問題 発表	発表と議論	復習：議論の再検討
14	動機づけ面接 模擬面接とグループワーク	模擬面接とグループワーク	復習：面接記録のまとめ
15	授業のまとめ 面接の機能分析 議論	議論	復習：授業の見直し

**【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】**

目標 A および I：参加者に複数回の発表を課します。この発表に関しては専門的なレベルと発表後の議論、質疑応答に関する対応を中心に評価します。全体の 70%がこれにあたります。

目標 K：議論時の参加の積極性や論理性に関して 30%の評価をします。なお、評価に関する共通理解に則る減点を総合点より行う場合があります。

**【教科書】** 使用しません。

授業科目名	臨床心理学研究法特論		授業形態・単位数	講義・2 単位
			開講年次	1 年次
担当教員	職名：教授 氏名： <sup>すぎやままさひこ</sup> 杉山雅彦 職名：准教授 氏名： <sup>さとうゆうき</sup> 佐藤佑貴	開講期	前期	
		授業回数	15 回	
		期末試験の実施	無	
授業に関する主な実務経験と期間		杉山：あかつき心理相談研究所 顧問・指導相談員 (平成 23 年 4 月～平成 27 年 3 月) 佐藤：福島学院大学大学院附属心理臨床相談センター相談員 (平成 19 年 4 月～現在)		
社会貢献としての委員会・職 等		杉山：福島県いじめ問題対策委員会・委員長 認知行動療法学会、常任編集委員、編集委員会副委員長 佐藤：福島市教育委員会 特別支援教育指導員		
資格・免許及び所属学会 等		杉山：筑波大学大学院博士課程心身障害学専攻科 修了(教育学博士) 臨床心理士(臨床心理士資格認定協会) 専門行動療法士(認知・行動療法学会) 認知・行動療法学会、行動分析学会、カウンセリング学会 佐藤：群馬大学大学院教育学研究科修了、修士(教育学) 公認心理師、臨床心理士、小学校教員専修免許状		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門科目	選択	
公認心理師		専門科目	選択	
臨床心理士		専門科目	選択	
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60 時間	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 メールアドレス： 杉山： sugiyama.masahiko@fukushima-college.ac.jp 佐藤： sato.yuhki@fukushima-college.ac.jp		

<b>【授業の概要】</b> 大学院においては「研究」をすることが求められます。 この研究に関して基本的な構成要因から方法を、具体的に明確にしながら、議論をする中で理解をしていきます。特に、各時間でテーマを立て、それに即して各自調べあるいは検討したものを発表、議論する形で授業は進められます。	<b>【授業の概要及び到達目標との対応項目】</b>			
	<input type="radio"/>	A	知識	
		B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力		
<input type="radio"/>	K	課題対処力		
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
<b>【授業の到達目標】</b>			<b>【授業の概要・到達目標との対応項目】</b> (受講して得られる力)	
研究を行うことに関して基礎的・専門的知識を有する			目標	A
心理学あるいは臨床心理学の対象に関して多角的、実証的、総合的に理解できる視点を持つ			目標	C,J
臨床心理学的視点から問題意識を持ち、臨床実践に貢献する研究を実施する基礎的な力を持つ			目標	C,K

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (杉山)	オリエンテーション	復習：研究とは何かに関して検討
2	研究とは (杉山)	研究とは何か、および、研究が成立するための要因に関して議論	復習：研究とは何かに関して授業を踏まえて再検討
3	研究とは (杉山)	研究の質を高め、目標を達成するための要因に関して議論	復習：研究に関して必要なものとは
4	研究を成立させるために (杉山)	研究を成立させるために何が必要かの議論	復習：先行研究を検索することの意味の検討
5	先行研究の意味 (杉山)	先行研究を同県等するかの議論	復習：ケース研究の方法の検討
6	ケース研究の方法論 (杉山)	ケース研究に関する発表およびその意味について発表、議論	復習：ケース検討の方法に関して授業を踏まえて再検討
7	「比較」という問題 (杉山)	データの比較という問題に関する発表と議論	復習：研究における「比較」に関して検討
8	統計的手法 (杉山)		復習：統計的手法に関する検討
9	統計的手法 (杉山)	統計的手法に関する発表および議論	復習：統計的手法に関して授業を踏まえ再検討
10	臨床場面と数値 (佐藤)	臨床研究における数値の意味とその理解に関する発表および議論	復習：数値に表れない状況の評価に関して検討
11	質的研究① (佐藤)	数値に表れない状況の評価に関して発表と議論	復習：質的研究に関する検討
12	質的研究② (佐藤)	質的研究に関する発表と議論	復習：質的研究に関して授業を踏まえ再検討
13	質的研究③ (佐藤)	質的研究に関する発表と議論	復習：研究の質向上に関する振り返り
14	合議と質の問題 (佐藤)	合議と質の問題に関する発表と議論	復習：資料の通読
15	研究に関するまとめ (杉山)	ケース研究、量的研究、質的研究に関する議論	復習：本授業の配布資料の見直し

【授業の到達目標に応ずる到達度の評価 (評価方法・基準)】

目標 A および C：授業期間中数回の発表機会を課します。発表内容に関する評価を 70 点満点として評価しますが、特に専門性と視点を重視します。

目標 J および K：議論の場面に関してその参加状況と内容に関して 30 点満点で評価します。

なお、評価に関する共通理解に則る減点を総合点より行う場合があります。

【教科書】 使用しません。

授業科目名	心理統計法特論		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：非常勤講師 ふりがな わだ ゆういち 氏名：和田 裕一 (本務先： 東北大学 職名：准教授)		開講期	後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	無
授業に関する主な実務経験と期間		東北大学大学院情報科学研究科准教授（平成19年10月～現在）		
社会貢献としての委員会・職等		日本心理学会教育研究委員会委員、日本人間工学会東北支部幹事		
資格・免許及び所属学会等		東北大学大学院情報科学研究科博士後期課程終了、博士（情報科学）		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門科目	選択	
公認心理師		専門科目	選択	
臨床心理士		専門科目	選択	
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 メールアドレス：yuwada@cog.is.tohoku.ac.jp		

<p><b>【授業の概要】</b></p> <p>授業の前半では、心理統計学の基本的知識について概説する。後半では、実際の学術論文にみられる統計的手続きやデータ解析、結果の解釈の妥当性や問題点等に関して議論する。具体的には、受講者に自らの研究計画やそれに関連する先行研究の資料やデータを提供してもらい、それをを用いて実際に統計解析の実習を取り入れながら、研究計画やデータ解析に関する議論を受講者全員で行う。具体的な進め方については初回授業時に説明する。</p>	<b>【授業の概要及び到達目標との対応項目】</b>			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
	○	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	○	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
<b>【授業の到達目標】</b>			<b>【授業の概要・到達目標との対応項目】</b> (受講して得られる力)	
心理学で用いる統計学の基礎知識とその原理について理解し、自分の言葉で説明できるようになる。			目標	A, C
学術論文で用いられている統計的記述の内容を正しく理解し、データ解析の結果を自分の視点から解釈できるようになることをめざす。			目標	A, B, C
表計算ソフトを用いた基本的な統計処理を会得する。			目標	B, I

**【授業計画】**

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修 <b>【予習・復習】</b>
1	イントロダクション	本講義では教科書は使用せず、講義毎に資料を配付する。	各自の研究テーマについての簡単な紹介を求めるので考えておくこと
2	心理統計学の基礎・尺度水準	パワーポイントと配布資料に基づく解説	

3	記述統計・代表値	パワーポイントと配布資料に基づく解説と、表計算ソフトを用いた実習	前回の確認テストを行うので復習しておくこと
4	散布度・標準化	〃	〃
5	散布図と相関	〃	〃
6	母集団と標本	〃	〃
7	正規分布	〃	〃
8	統計的仮説検定 1	〃	〃
9	統計的仮説検定 2	〃	〃
10	実験計画と分散分析	実際の学術論文などのデータを用いた演習形式	〃
11	分散分析における交互作用と多重比較	〃	〃
12	多変量解析 1：因子分析	〃	〃
13	多変量解析 2：重回帰分析など	〃	〃
14	ノンパラメトリック検定	〃	〃
15	質的データ分析	〃	〃
<p><b>【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】</b>          評価は、目標 A,B,C,I の達成度合いについて、平常点（50%：授業への積極的な取り組みや質疑等への自発的な応答を評価）と期末レポート（50%：具体的な評価項目、評価基準に関しては授業内で説明する）の成績にもとづいて評価します。詳しくは第 1 回目に解説します。</p>			
<p><b>【教科書】</b> 使用しません。</p>			
<p><b>【参考書】</b> 書 名：完全独習 統計学入門          著者名：小島寛之          発行所：ダイヤモンド社          価 格：1800 円(税別)</p>			
<p><b>【その他補足事項】</b>          上述の授業内容はあくまで暫定的なものであり、受講人数や受講者の研究領域や関心等に応じて変更する場合があります。本授業は原則としてパワーポイントによるプレゼン形式で行います。教科書は用いず、毎回、講義資料を配付します。各回の授業内容は、進度や状況に応じて変更される場合があります。講義の一部は、表計算ソフト（Excel 等）を用いた実習形式で行うことを予定しています。その際、PC は大学に準備されているものを利用可能ですが、個人所有のノート PC を使用してもかまいません。なお、評価に関する共通理解に則る減点を総合点より行う場合があります。</p>			



授業科目名	発達心理学特論		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：兼担教授 ふりがな 氏名：梅宮 れいか		開講期	前期
			授業回数	15回
			期末試験の実施	無
授業に関する主な実務経験と期間				
社会貢献としての委員会・職 等		日本学校心理会福島支部会長、日本臨床発達心理士会研修委員		
資格・免許及び所属学会 等		日本健康医学会、日本教育心理学会 学校心理士スーパーバイザー、臨床発達心理士スーパーバイザー		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門科目	選択	
公認心理師		専門科目	選択	
臨床心理士		専門科目	選択	
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、火曜日午後、宮代キャンパス研究室にて メールアドレス：umemiya.reika@fukushima-college.ac.jp		

<p><b>【授業の概要】</b></p> <p>この授業は、発達場面で現れる諸問題に対応するための基礎知識を、人の生涯発達から理解するものです。効果的な臨床手法の考察は対象としていませんが、人の発達に関して、臨床学的なアプローチを含みます。教科書を用いますが、毎回全員にレビューを提出してもらいます。担当教員は、提出されたレビューを概読し、その中から発表者を指名します。全員が事前に教科書の関連箇所とCiniiで検索した関連論文をまとめ、発表できるよう準備をしてください。レビューをキーにしたアクティブラーニング（反転学習）で授業を行います。</p>	<b>【授業の概要及び到達目標との対応項目】</b>		
	○	A	知識
		B	技術・技能
	○	C	論理的思考力
		D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J	多様性への理解力、応用力
		K	課題対処力
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
<b>【授業の到達目標】</b>		<b>【授業の概要・到達目標との対応項目】</b> (受講して得られる力)	
発達臨床から人の発達を理解する		目標	A
臨床場面での諸問題を発達心理学的に理解する基礎を養う		目標	A
人の生涯発達と、直面している問題の関係を心理学的に把握する思考力を養う		目標	C

**【授業計画】**

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	この講座で学ぶ内容の把握 講座運営についての説明 Cinii の使い方	福島駅前キャンパス図書館の 情報検索端末を実際に操作する	駅前図書室に集合のこと

2	臨床心理学と発達理解	関連箇所) 教科書 序章 講義	予習: 教科書の通読 復習: 教科書の理解 と疑問点の整理
3	生涯発達	関連箇所) 教科書第1章 レビュー発表とディスカッション	予習: レビューの作成 復習: 教科書の理解 と疑問点の整理
4	乳幼児期の発達	関連箇所) 教科書第2章 レビュー発表とディスカッション	予習: レビューの作成 復習: 教科書の理解 と疑問点の整理
5	発達障害と臨床的援助	関連箇所) 教科書第3章 レビュー発表とディスカッション	予習: レビューの作成 復習: 教科書の理解 と疑問点の整理
6	児童期・思春期の発達と教育環境	関連箇所) 教科書第4, 5章 レビュー発表とディスカッション	予習: レビューの作成 復習: 教科書の理解 と疑問点の整理
7	思春期の性の発達と LGBT	講義 DVD「僕のバラ色の人生」30分	予習: 配布論文「LGBT とその周辺問題」 復習: ノートの整理
8	スクールカウンセラーの機能と援助サービス	関連箇所) 教科書第6章 レビュー発表とディスカッション	予習: レビューの作成 復習: 教科書の理解 と疑問点の整理
9	青年期の発達	関連箇所) 教科書第7章 レビュー発表とディス カッション	予習: レビューの作成 復習: 教科書の理解 と疑問点の整理
10	青年期の心理障害と精神病理	関連箇所) 教科書第8章 レビュー発表とディスカッション	予習: レビューの作成 復習: 教科書の理解 と疑問点の整理
11	大学生の発達と学生相談	関連箇所) 教科書第9章 レビュー発表とディスカッション	予習: レビューの作成 復習: 教科書の理解 と疑問点の整理
12	家族臨床と教育	関連箇所) 教科書第11章 レビュー発表とディスカッション	予習: レビューの作成 復習: 教科書の理解 と疑問点の整理
13	老年期の発達	関連箇所) 教科書第12章 レビュー発表とディスカッション	予習: レビューの作成 復習: 教科書の理解 と疑問点の整理
14	総ディスカッション	ディスカッション	予習: テーマに関する 情報の整理 復習: 知識の整理

15	最終レポートの作成	課題は14回目に発表する 15回目では質問に応じる	予習：課題に関する情報 の収集 提出日：15回目実施日 +1週間
<p>【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】</p> <p>目標 A：各界のレビュー5点満点（計 50 点満点）          目標 C：総ディスカッションの発言内容 25 点満点          目標 A,C：最終レポート 25 点満点          総計 100 点満点で評価。なお、評価に関する共通理解に則る減点を総合点より行う場合があります。</p>			
<p>【教科書】書 名：教育心理学＜2＞発達と臨床援助の心理学</p> <p>※注）タイトルは「教育心理学」ですが、内容は発達心理学による心理臨床について書かれている本です。</p> <p>著者名：山下晴彦          発行所：東京大学出版会          価 格：2,900 円(税別)</p>			
<p>【参考書】書 名：発達心理学Ⅰ、発達心理学Ⅱ</p> <p>著者名：無藤隆（編）          発行所：東京大学出版会          価 格：Ⅰ/3,200 円(税別)、Ⅱ/3,400 円（税別）</p>			図書館に用意しています。
<p>【その他の補足事項】</p> <p>全員、毎回レジメの提出を求めます。教科書の理解と共に、Cinii での論文検索は必ず行ってください。先行研究がしっかり取り上げられているレビュー、発言を高く評価します。</p> <p>なお、Cinii での検索の仕方は、初回に説明します。参考書は図書館に用意していますので、適宜参照してください。</p>			

# 心理学研究科臨床心理専攻 授 業 計 画

2019 年度

授業科目名	<b>教育心理学特論</b> (教育分野に関する理論と支援の展開)	授業形態・単位数	講義・2単位
		開講年次	2年次
担当教員	職名：兼担教授 ふりがな 氏名：田辺 稔 <small>たなべ みのる</small>	開講期	後期
		授業回数	15回
		期末試験の実施	無
授業に関する主な実務経験と期間			
社会貢献としての委員会・職 等		福島市子ども子育て会議 会長 (2018.3 まで) 福島市児童福祉専門部会 会長 (2018.4 より現在に至る)	
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等		玉川大学大学院文学研究科修士課程 (教育学専攻) 修了 修士 日本応用心理学会・日本社会心理学科・日本カウンセリング学会	
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別
卒業		専門科目	選択
公認心理師		専門科目	必修
臨床心理士		専門科目	選択
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60 時間
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 メールアドレス： tanabe.minoru@fukushima-college.ac.jp	

<b>【授業の概要】</b> 本科目では、教育の過程における心理学的な法則や事実を理解し検討を加えていくことを目的に、教育心理学の基本的課題の内、学習、人格（法則定立的観点）と適応、教育評価の各項目から履修者自身のテーマに沿って学んでいきます。従って特定のテキスト等はいらず、教材は教育心理学の学術論文・専門書あるいは園や学校での実務経験を持つ履修者が現場で直面した問題をレジュメにまとめたものを使用していきます。授業進行は履修者からの原著論文等の解釈と得られた知見、問題意識の提起を中心に進めていきます。	<b>【授業の概要及び到達目標との対応項目】</b>		
	○	A	知識
		B	技術・技能
	○	C	論理的思考力
		D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J	多様性への理解力、応用力
	K	課題対処力	
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
<b>【授業の到達目標】</b>		<b>【授業の概要・到達目標との対応項目】</b> (受講して得られる力)	
子どもの心身の発達への理解		目標	A
学習の過程について理解		目標	A・B
		目標	

<b>【授業計画】</b>			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 心理学の研究方法与教育心理学の課題。	教育心理学で扱う領域の説明と授業の進め方を説明します。	

2	個人研究テーマの共有と本授業における担当分野の決定		
3	各領域に関する論文講読 学習理論分野 1	教育心理学の基本的課題の内、左記領域を取り上げ履修者全員で講読していきます。	事前に配布する論文等の事前学習。
4	各領域に関する論文講読 学習理論分野 2	教育心理学の基本的課題の内、左記領域を取り上げ履修者全員で講読していきます。	事前に配布する論文等の事前学習。
5	各領域に関する論文講読 学習理論分野 3	教育心理学の基本的課題の内、左記領域を取り上げ履修者全員で講読していきます。	事前に配布する論文等の事前学習。
6	各領域に関する論文講読 2 学習理論分野 4	教育心理学の基本的課題の内、左記領域を取り上げ履修者全員で講読していきます。	事前に配布する論文等の事前学習。
7	各領域に関する論文講読 人格・適応分野 1 (本講義は個性記述的アプローチでは無く、法則定立的観点から個人差を考えていきます)	教育心理学の基本的課題の内、左記領域を取り上げ履修者全員で講読していきます。	事前に配布する論文等の事前学習。
8	各領域に関する論文講読 人格・適応分野 2	履修者からの学術論文等の解釈と得られた知見、問題意識の提起を中心に進めていきます。	レジュメの準備 発表及び他の履修者から質疑に 応答するための 準備
9	各領域に関する論文講読 人格・適応分野 3	履修者からの学術論文等の解釈と得られた知見、問題意識の提起を中心に進めていきます。	レジュメの準備 発表及び他の履修者から質疑に 応答するための 準備
10	各領域に関する論文講読 人格・適応分野 4	履修者からの学術論文等の解釈と得られた知見、問題意識の提起を中心に進めていきます。	レジュメの準備 発表及び他の履修者から質疑に 応答するための 準備
11	各領域に関する論文講読 人格・適応分野 5	履修者からの学術論文等の解釈と得られた知見、問題	レジュメの準備 発表及び他の履

		意識の提起を中心に進めていきます。	修者から質疑に 応答するための 準備
12	各領域に関する論文講読 教育評価分野 1 (統計解析関連を含む)	履修者からの学術論文等の 解釈と得られた知見、問題 意識の提起を中心に進めて いきます。	レジュメの準備 発表及び他の履 修者から質疑に 応答するための 準備
13	各領域に関する論文講読 教育評価分野 2 (統計解析関連を含む)	履修者からの学術論文等の 解釈と得られた知見、問題 意識の提起を中心に進めて いきます。	レジュメの準備 発表及び他の履 修者から質疑に 応答するための 準備
14	各領域に関する論文講読 教育評価分野 3 (統計解析関連を含む)	履修者からの学術論文等の 解釈と得られた知見、問題 意識の提起を中心に進めて いきます。	レジュメの準備 発表及び他の履 修者から質疑に 応答するための 準備
15	最終レポートの作成	履修者の研究範囲に沿った 課題を14回目に提示してい きます。	
<p><b>【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】</b>          到達目標A・Bについて          分担発表の質（レジュメ、発表の仕方）50%、授業への参加度（議論への積極的な参加）25%          最終レポート25% 計100点満点で評価します。</p>			
<p><b>【教科書】</b>          特定のテキスト等はいらず、教材は教育心理学の学術論文・専門書あるいは園や学校での実務経験を持つ履修者が現場で直面した問題をレジュメにまとめたものを使用していきます。</p>			
<p><b>【その他補足事項】</b>          履修者による研究発表は履修者数により増減しますが、2回から3回程度を担当して貰います。          また履修者の研究テーマに合わせ、各領域に関するコマ数に増減があります。</p>			

授業科目名	<p style="text-align: center;"><b>家族心理学特論</b> (家族関係・集団・地域社会における 心理支援に関する理論と実践)</p>	授業形態・単位数	講義・2単位
		開講年次	1・2年次
担当教員	職名：非常勤講師 <small>ふりがな</small> 氏名：渡部敦子 <small>わたなべあつこ</small> (本務先：尚絅学院大学 職名：准教授)	開講期	夏期集中
		授業回数	15回
		期末試験の実施	無
授業に関する主な実務経験と期間			
社会貢献としての委員会・職 等			
資格・免許及び所属学会 等		公認心理師、臨床心理士 日本家族心理学会	
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別
卒業		専門科目	選択
公認心理師		専門科目	必修
臨床心理士		専門科目	選択
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	授業の前後に教室で質問等に対応いたします。		

<p><b>【授業の概要】</b></p> 本授業では、現代家族の様相について様々な側面から解説していきます。さらに家族を理解し支援する理論と技法について実践を交えながら学んでいきます。	<b>【授業の概要及び到達目標との対応項目】</b>		
	○	A	知識
	○	B	技術・技能
		C	論理的思考力
		D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○	J	多様性への理解力、応用力
		K	課題対処力
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力

<b>【授業の到達目標】</b>		<b>【授業の概要・到達目標との対応項目】</b> (受講して得られる力)	
家族とは何かについて説明できる。		目標	A
家族システム理論について理解できる。		目標	A、J
家族を支援する理論の基礎を理解する。		目標	A、B、J

**【授業計画】**

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	家族とは何か 家族心理学とはどのような学問か	配布資料 ディスカッション	復習：配布資料を読む
2	家族の発達	配布資料 ディスカッション	復習：配布資料を読む

3	夫婦関係、親子関係、きょうだい関係	配布資料 ディスカッション	復習：配布資料を読む
4	父性・母性とは 虐待	配布資料 ディスカッション	復習：配布資料を読む
5	家族をとりまくさまざまな問題	配布資料 ディスカッション	復習：配布資料を読む レポート作成
6	家族アセスメントの方法	配布資料 ディスカッション	復習：配布資料を読む
7	家族システム論(1) システム論とはどのような考え方か	配布資料 ディスカッション	復習：配布資料を読む
8	家族システム論(2) 事例をもとに考えてみる	配布資料 ディスカッション 事例検討	復習：配布資料を読む レポート作成
9	多世代派家族療法	配布資料 ディスカッション	復習：配布資料を読む
10	構造派家族療法	配布資料 ディスカッション	復習：配布資料を読む
11	コミュニケーション派家族療法(1) コミュニケーションについて考える	配布資料 ディスカッション	復習：配布資料を読む
12	コミュニケーション派家族療法(2) 実際の進め方	配布資料 ワークおよびディスカッション	復習：配布資料を読む
13	短期療法 解決志向アプローチ	配布資料 ディスカッション	復習：配布資料を読む
14	ナラティブセラピー	配布資料 ディスカッション	復習：配布資料を読む
15	まとめ 視点を地域に広げて～コミュニティアプローチ	配布資料 ディスカッション	配布資料を読む まとめレポート作成
<p><b>【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】</b>          目標 A：レポート（小レポート：随時行います、まとめレポート）30 点満点          目標 B および I：授業への参加態度（ディスカッションへの積極性、授業内容の理解度）70 点満点          なお、評価に関する共通理解に則る減点を総合点より行う場合があります。</p>			
<p><b>【教科書】</b> 使用しません。</p>			



授業科目名	<b>職場メンタルヘルス特論</b> (産業・労働分野に関する理論と支援の展開)	授業形態・単位数	講義・2単位
		開講年次	2年次
担当教員	職名：教授 <small>ふりがな</small> 氏名：茂木積雄 <small>もてきせきお</small>	開講期	後期
		授業回数	15回
		期末試験の実施	無
授業に関する主な実務経験と期間	福島県立医科大学第2内科・日本大学臨床病理学教室・カリフォルニア大学デイビス校臨床免疫学教室・国立福島病院内科・他 (39年)		
社会貢献としての委員会・職等	「福島県社会保険診療請求書審査委員会学識経験者審査委員選考協議会」委員		
最終卒業(修了)大学及び学位等 資格・免許及び所属学会等	福島県立医科大学・医学博士 医師・産業医・認定内科医・日本内科学会・日本肝臓学会・ 日本リウマチ学会		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門科目	選択	
公認心理師	専門科目	必修	
臨床心理士	専門科目	選択	
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等			

<b>【授業の概要】</b> 現在の企業および産業医が最も対応に難渋し、しかも早急に取り組むべき喫緊の課題である職場のメンタルヘルスの現状と対策に関する基本的な理解を深め、臨床心理学の専門職としての立場から、他職種とチーム医療を推進する上で効果的な心理的支援を行うための知識の習得を目指します。	<b>【授業の概要及び到達目標との対応項目】</b>		
	<input type="radio"/>	A	知識
	<input type="radio"/>	B	技術・技能
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力
		D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力
		K	課題対処力
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力

<b>【授業の到達目標】</b>	<b>【授業の概要・到達目標との対応項目】</b> (受講して得られる力)	
・種々のストレスがメンタルヘルスに及ぼす影響の基本的事項に関して、自分の言葉で説明できるようになる。	目標	A, C
・職場のメンタルヘルス対策の重要性について自分の視点で論じることができるようになる。	目標	A, C
・医療及び産業保健の現場で、患者と労働者のメンタルヘルス対策を進める上での課題と問題点についての理解を深める。	目標	A, C, J
・ストレスチェック制度が導入された経緯を理解するとともに、ストレスチェック制度の概要・実施方法・問題点、等に対する理解を深める。	目標	A, B, C

**【授業計画】**

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修 <b>【予習・復習】</b>
----	------------	----------------------------------	--------------------------------

1	<p>オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の概要と目標（授業内容）</li> <li>・評価方法・授業の進め方の留意点</li> </ul>	<p>授業計画</p> <p>ディスカッション</p>	
2	<p>産業保健活動の標準的プロセス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リスクアセスメントの目的と方法</li> <li>・生物学的健康障害要因の把握</li> </ul>	<p>プリント配布：「職場で問題となる感染症」</p>	<p>復習：結核・インフルエンザ・ノロウイルス感染症の予防と蔓延防止策を考える。</p>
3	<p>（安全）衛生委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目的と役割</li> <li>・安全衛生目標の基本</li> <li>・年間目標と評価</li> </ul>	<p>プリント配布「産業医と健康管理スタッフの役割」</p>	<p>復習：職場環境と健康管理の基本を理解する。</p>
4	<p>今職場で起こっていること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ストレスを感じている労働者の増加</li> </ul>	<p>DVD 視聴（60分）「長時間労働と過労死」（映像利用）」</p>	<p>復習：現在注目されている労働問題の概要を理解する。</p>
5	<p>職場におけるストレス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職場環境と心理的ストレス</li> <li>・ストレスの自己管理と健康管理スタッフの役割</li> </ul>	<p>プリント配布「心理的ストレスの種類と発生要因」</p>	<p>復習：職場におけるストレスの概要と緩衝要因についての理解を深める。</p>
6	<p>心理的ストレスと身体反応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・心身症の種類と病態</li> </ul>	<p>DVD 視聴（30分）「ストレスとストレス反応（映像利用）」</p>	<p>復習：心理的ストレスが身体に及ぼす影響を考える。</p>
7	<p>職場のメンタルヘルス対策（総論）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メンタルヘルス関連のキーワード</li> </ul>	<p>プリント配布「メンタルヘルス関連のキーワードについて」</p>	<p>復習：メンタルヘルスと関連したキーワードの概要を理解する。</p>
8	<p>職場でみられる精神疾患（1）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・うつ病</li> <li>・新型うつ病（現代型うつ病）</li> </ul>	<p>DVD 視聴（30分）「うつ病の治療」（映像利用）」</p>	<p>復習：うつ病の症状・特徴・治療の基本的事項を理解する。</p>
9	<p>職場でみられる精神疾患（2）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・適応障害</li> <li>・不安障害</li> <li>・アルコール依存症</li> </ul>	<p>プリント配布「アルコール依存症と肝障害」</p>	<p>復習：それぞれの疾患の特徴について考える。</p>

10	<p>職場復帰支援プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・支援の目的、留意点および限界</li> <li>・健康管理スタッフの役割とラインケア</li> </ul>	<p>プリント配布「職場復帰支援プログラムの事例（仮想）」</p> <p>事例による検討</p>	<p>復習：患者心理に基づいた支援のたて方を考える。</p>
11	<p>過重労働と夜勤労働者の労働管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・残業時間と過労死の関係</li> <li>・交替制勤務および夜勤業務者の健康問題</li> </ul>	<p>プリント配布「交替性勤務および夜勤業務が心身の健康に及ぼす影響」</p>	<p>復習：過重労働が心身におよぼす影響について理解する。</p>
12	<p>ストレスチェック制度（総論）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・制度導入となった社会的背景の概要</li> <li>・ストレスチェック制度の概要</li> </ul>	<p>プリント配布「パワハラ対策と企業の生産性」</p>	<p>復習：ストレスチェック制度の概要を理解する。</p>
13	<p>ストレスチェック制度の実施（1）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的実施方法の概要</li> <li>・面接指導、事後措置、集計と分析</li> </ul>	<p>プリント配布「ストレスチェック制度の流れ」</p>	<p>復習：ストレスチェック制度を実施する上での問題点について考える」</p>
14	<p>ストレスチェック制度の実施（2）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施項目の概要</li> <li>・ストレスチェックの実習</li> </ul>	<p>プリント配布「職業性ストレス簡易調査票」</p>	<p>復習：職業性ストレス簡易調査票の概要を理解する。</p>
15	<p>まとめ</p>	<p>スライド（パワーポイント）</p> <p>「職場のメンタルヘルス対策」</p>	<p>復習：既習内容のポイントを再確認する。</p>
<p><b>【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】</b></p> <p>目標 A, B, C, J について以下の点から到達度を評価します。</p> <p>(1) レポート：レポートは 70 点満点の採点とします。課題は授業内容に沿い、興味関心をもった領域に関して各自で課題を設定する方式とします。</p> <p>(2) その他：授業内容の理解度を確認するために記述式の小テストを数回実施します（30 点満点）。採点は授業内で答え合わせを行い、理解不足の箇所を各自確認する資料とします。</p>			
<p><b>【教科書】</b> 使用しません。プリントを配布します。</p>			
<p><b>【参考書】</b> 書 名：職場のメンタルヘルス対策最前線          著者名：中村純          発行所：昭和堂          価 格：1,700 円(税別)</p>			

授業科目名	<b>犯罪心理学特論</b> (司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	2年次
担当教員	職名：非常勤講師 ふりがな <small>いくしま ひろし</small> 氏名：生島 浩 (本務先：福島大学 職名：教授)		開講期	後期
			授業回数	15回
			期末試験の実施	有
授業に関する主な実務経験と期間		法務省保護観察官（昭和54年4月～平成13年3月）		
社会貢献としての委員会・職等		ふくしま被害者支援センター理事長, 更生保護法人至道会理事など		
資格・免許及び所属学会等		東北大学大学院文学研究科人間科学専攻博士課程修了, 博士(文学), 公認心理師(第5931号), 臨床心理士 日本更生保護学会, 犯罪心理学会, 家族療法学会など		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門科目	選択	
公認心理師		専門科目	必修	
臨床心理士		専門科目	選択	
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了後に質問等で対応します。 E-mail:shojima@educ.fukushima-u.ac.jp		

<b>【授業の概要】</b> この授業は、公認心理師のカリキュラムに則り、犯罪や非行をした者について、その原因や心理の分析、再犯のリスク評価、矯正・更生保護のための指導・助言、処遇プログラムについて学びます。また、家庭内紛争における当事者や子どもへの専門的関与、さらには、犯罪被害者等に対する相談援助について、その基本を修得する授業とします。 予習では、教科書を精読して、司法犯罪・分野の制度、各専門職の職域、実践について概要を把握し、授業のなかで不明点を解消できるよう質疑応答に努めてください。	<b>【授業の概要及び到達目標との対応項目】</b>			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
	<input type="radio"/>	G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	

<b>【授業の到達目標】</b>		<b>【授業の概要・到達目標との対応項目】</b> (受講して得られる力)	
司法・犯罪分野に関する支援システムの概要を理解する		目標	A
非行・犯罪領域の心理的支援について基本を説明できる		目標	B
司法・犯罪領域に必須な多機関多職種協働について基本を学ぶ		目標	G

**【授業計画】**

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	司法・犯罪心理学とは何か～公認心理師カリキュラムとして求められるもの～	授業の進め方を説明します。NHK「クローズアップ現代」視聴で講師紹介。	教科書：監修者・編者まえがきの予習・復習
2	司法・犯罪分野の概要(1)：特徴と留意点	予習により把握した疑問点を授業で発表し、質疑応答で解消する。犯罪白書。	教科書 18-19 ページの予習・復習

3	司法・犯罪分野の概要（2）：非行臨床について	予習により把握した疑問点を授業で発表し、質疑応答で解消する。犯罪白書。	教科書：20-26 ページの予習・復習
4	司法・犯罪分野の概要（3）：犯罪臨床について	予習により把握した疑問点を授業で発表し、質疑応答で解消する。犯罪白書。	教科書：27-32 ページの予習・復習
5	家族臨床（家事事件）：システムの概要	予習により把握した疑問点を授業で発表し、質疑応答で解消する。	教科書：38-43 ページの予習・復習
6	非行臨床（少年事件）：制度・法規と公認心理師の位置づけ	予習により把握した疑問点を授業で発表し、質疑応答で解消する。	教科書：46-52 ページの予習・復習
7	非行臨床（少年事件）：専門機関・専門職の概要	予習により把握した疑問点を授業で発表し、質疑応答で解消する。NHKBS ドキュメンタリー「再出発の町」	教科書：72-75, 88-91 ページの予習・復習
8	非行臨床（少年事件）：専門機関・専門職の事例紹介	予習により把握した疑問点を授業で発表し、質疑応答で解消する。	教科書：110-111 ページの予習・復習
9	犯罪臨床（成人事件）：制度・法規と公認心理師の位置づけ	予習により把握した疑問点を授業で発表し、質疑応答で解消する。	教科書：51-52 ページの予習・復習
10	犯罪臨床（成人事件）：専門機関・専門職の概要	予習により把握した疑問点を授業で発表し、質疑応答で解消する。	教科書：92-95 ページの予習・復習
11	犯罪臨床（成人事件）：専門機関・専門職の事例紹介	予習により把握した疑問点を授業で発表し、質疑応答で解消する。	教科書：121 ページの予習・復習
12	犯罪被害者支援：制度・機関・専門職の概要	予習により把握した疑問点を授業で発表し、質疑応答で解消する。	教科書：33-37 ページの予習・復習
13	児童・社会福祉との連携：児童相談所等の心理専門職	予習により把握した疑問点を授業で発表し、質疑応答で解消する。	教科書：53-54, 96-99, 123 ページの予習・復習
14	触法障害者の地域生活支援：医療観察制度における心理専門職	予習により把握した疑問点を授業で発表し、質疑応答で解消する。NHKETV「居場所があれば立ち直れる」	教科書：55-59, 100-105, 116 ページの予習・復習
15	まとめと総ディスカッション：立ち直り支援として心理職が出来ること	授業全体のまとめを兼ねてテーマについて質疑応答	ディスカッションの準備として質疑をまとめる
期末試験	後期末試験（小論文形式）		
<p><b>【期末試験の講評】</b>          期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、教務課を通じて説明します。</p>			
<p><b>【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】</b>          目標 A・B：期末試験（小論文） 70点満点          目標 G：総ディスカッション 30点満点          ほか、評価に関する共通理解に則る加点・減点を行います。</p>			

<p><b>【教科書】</b> 書名：公認心理師分野別テキスト 司法・犯罪分野  著者名：生島浩 編著  発行所：創元社  価 格：2400 円(税別)</p>	
<p><b>【参考書】</b> 書名：触法障害者の地域生活支援  著者名：生島浩 編著  発行所：金剛出版  価 格：3,600 円(税別)</p>	
<p><b>【その他補足事項】</b>  新聞等により非行・犯罪に関わる事件に関心を抱いて授業に臨んでください。また、犯罪白書を図書館や法務省の HP で参照して、予習や復習を含めた学習に活用するスキルを身につけることが肝要です。</p>	

授業科目名	精神医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開)	授業形態・単位数	講義・2単位
		開講年次	1・2年次
担当教員	職名：教授 ふりがな ほしのよしひこ 氏名：星野仁彦	開講期	夏期集中
		授業回数	15回
		期末試験の実施	無
授業に関する主な実務経験と期間		精神科専門医として46年間の経験	
社会貢献としての委員会・職等		福島市を含む県北地区の学校精神科医	
最終卒業(修了)学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		精神保健指定医、精神科専門医、日本精神神経学会会員	
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別
卒業		専門科目	選択
公認心理師		専門科目	必修
臨床心理士		専門科目	選択
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	授業終了後に質問等で対応します。 E-mail:shojima@educ.fukushima-u.ac.jp		

【授業の概要】 各種の精神障害—特に発達障害、不安障害（神経症）、うつ病、気分障害、認知症、嗜癖行動、人格障害、統合失調症などの臨床症状、病態と原因、医学的治療法、心理療法、家庭療法、行動療法、リハビリテーションなどについて基礎的、臨床的知識を深めます。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】		
	○	A	知識
		B	技術・技能
		C	論理的思考力
		D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	○	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J	多様性への理解力、応用力
		K	課題対処力
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力

【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
精神医学の基礎的、臨床的知識を身につける。	目標	A
病理にあわせた支援法について知る。	目標	A
病理についてのイメージを深める。	目標	A, I
保健医療分野における公認心理師の役割と実践について知る。	目標	A

【授業計画】			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	発達障害—特に自閉症スペクトラム障害について本障害における公認心理師の役割と実践	資料(レジュメ) ディスカッション	予習:下欄に示す各種ビデオ(星野研究室)に目を通してお

			くこと
2	発達障害 —特に注意欠陥/多動性障害と学習障害について	資料（レジюме） ビデオ「心のトラブル Vol.3 —注意欠陥/多動性障害 (ADHD)」(30分)	復習：配布資料 資料を通読
3	発達障害 —特にアスペルガー障害と高機能自閉症について	資料（レジюме）	復習：発達障害 について事後学 習を行い、状態 像・対応等につ いて理解を深め ること
4	不安障害 —特にパニック障害、社会不安障害、 強迫性障害について 本障害における公認心理師の役割と実践	資料（レジюме） ビデオ「心のトラブルVol.8 —強迫性障害」(30分) ビデオ「心のトラブル Vol.9 —パニック障害」(30分)	復習：配布資料 資料を通読
5	不安障害 —特にPTSD、離人症、解離性障害について	資料（レジюме）	復習：配布資料 資料を通読
6	うつ病・（気分障害）、双極性障害 その① 本障害における公認心理師の役割と実践	資料（レジюме） ビデオ「心のトラブル Vol.6 —気分障害」(30分)	復習：配布資料 資料を通読
7	うつ病・（気分障害）、双極性障害 その②	資料（レジюме） ビデオ「心のトラブル Vol.4 —双極性障害」(30分)	復習：配布資料 資料を通読
8	認知症 —特に脳血管性とアルツハイマー型について 本障害における公認心理師の役割と実践	資料（レジюме） ビデオ「心のトラブル Vol.1—アル ツハイマー型認知症」(30分)	復習：配布資料 資料を通読
9	認知症—その他	資料（レジюме）	復習：配布資料 資料を通読
10	依存症と嗜癖行動 —特にアルコール、薬物依存について 本障害における公認心理師の役割と実践	資料（レジюме）	復習：配布資料 資料を通読
11	依存症と嗜癖行動 —特にギャンブル、浪費、恋愛、過食、自傷行為に ついて	資料（レジюме） ビデオ「心のトラブル Vol.7 —摂食障害」(30分)	復習：配布資料 資料を通読
12	パーソナリティ障害 —特に境界性、自己愛性、反社会性について 本障害における公認心理師の役割と実践	資料（レジюме） ビデオ「心のトラブル Vol.2— 反社会性人格障害」(30分)	復習：配布資料 資料を通読



13	パーソナリティ障害 —特に回避性、依存性、強迫性について	資料（レジユメ）	復習：配布資料 資料を通読
14	統合失調症 —その臨床症状と病態 本障害における公認心理師の役割と実践	資料（レジユメ） ビデオ「心のトラブル Vol.12 —統合失調症（精神分裂病）」（30分）	復習：配布資料 資料を通読
15	統合失調症 —その医学的治療とリハビリテーション	資料（レジユメ）	復習：配布資料 資料を通読
<p><b>【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】</b>          目標 A：毎回の授業内レポート（授業内容の理解度）60%          目標 I：授業態度（意欲・積極性）40%          により判断します。この他に、評価に関する共通理解に則る加点・減点を行います。</p>			
<p><b>【教科書】</b> 使用しません。プリントを配布します。</p>			
<p><b>【参考書】</b> 書名：改訂第3版 精神保健福祉士養成セミナー第1巻 精神医学          著者名：小阪憲司他（編）          発行所：へるす出版          価格：2,940円（税別）</p> <p>書名：改訂第3版 精神保健福祉士養成セミナー第2巻 精神保健学          著者名：谷野亮爾他（編）          発行所：へるす出版          価格：3,150円（税別）</p>			

# 心理学研究科臨床心理学専攻 授業計画

2019年度

授業科目名	<b>発達障害児心理学特論</b> (福祉分野に関する理論と支援の展開)	授業形態・単位数	講義・2単位
		開講年次	1年次
担当教員	職名：客員教授 <small>ふりがな</small> 氏名：板垣健太郎 <small>いたがきけんたろう</small>	開講期	前期
		授業回数	15回
		期末試験の実施	無
授業に関する主な実務経験と期間		(社)富岳会富岳学園(知的障害児通園施設) 園長 (昭和60年4月～平成元年3月)	
社会貢献としての委員会・職等		福島県社会福祉会保育士研修会講師 (平成11年4月～平成12年3月)	
最終卒業(修了)学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		筑波大学大学院博士課程心身障害学研究科知能障害専攻単位取得後退学、修士(教育学)	
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別
卒業		専門科目	選択
公認心理師		専門科目	必修
臨床心理士		専門科目	選択
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等		授業の前後に質疑等対応いたします。	

<b>【授業の概要】</b> 発達障害児の個別療育的セラピー、保護者や兄弟姉妹への援助、他機関との連携の実際について学びます。履修者でテーマを分担し、関係文献・著書を調べ、レジュメを作成して発表し合う形式で進めます。授業内容は基本的には「授業内容」とおりましたが、履修者の臨床に関する知識や経験に応じて、より必要なものに変更していく予定です。	<b>【授業の概要及び到達目標との対応項目】</b>		
	○	A	知識
		B	技術・技能
		C	論理的思考力
		D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○	J	多様性への理解力、応用力
		K	課題対処力
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
<b>【授業の到達目標】</b>		<b>【授業の概要・到達目標との対応項目】</b> (受講して得られる力)	
・発達障害の療育的関わりの考え方や実際の方法について理解する。		目標	A、J
・発達障害児を持つ家族への援助の考え方や実際について理解する。		目標	A、J
・他機関との連携についての考え方や実際について知る。		目標	A、J

## 【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	授業説明、テーマの分担		
2	心理臨床相談センターの施設・設備・業務	説明と見学研修	

3	療育的セラピーの考え方	講義（レジュメ使用）	復習：資料の通読
4	療育的セラピーの進め方	〃	〃
5	療育的セラピーの計画とプログラム、記録	〃	〃
6	自閉症スペクトラム障害児の療育的セラピー1 ～目的	発表と質疑応答	〃、 予習：発表準備
7	自閉症スペクトラム障害児の療育的セラピー2 ～心理診断、	〃	〃
8	自閉症スペクトラム障害児の療育的セラピー3 ～内容	〃	〃
9	注意欠陥多動性障害の療育的セラピー	〃	〃
10	「問題行動」の捉え方と対処法	〃	〃
11	心理職と保育職の連携	発表とディスカッション	〃
12	心理職と他機関の連携	〃	〃
13	保護者援助	〃	〃
14	対象でない子ども（兄弟姉妹）への配慮・ケア	〃	〃
15	補充ディスカッション	ディスカッション	〃
<p><b>【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】</b>          目標 A：担当したテーマについてのレジュメの内容（知識量や説明力）（60 点満点）          目標 J：発言内容の的確さ（40 点満点）          により評価します。ほか、評価に関する共通理解に則る加点・減点を行います。</p>			
<p><b>【教科書】</b> 使用しません。</p>			

# 心理学研究科臨床心理学専攻 授 業 計 画

2019 年度

授業科目名	<b>心理療法特論</b>		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	1・2年次
担当教員	職名：非常勤講師 <small>ふりがな</small> 氏名：渡部純夫 <small>わたなべすみお</small> (本務先：東北福祉大学 職名：教授)	開講期	前期	
		授業回数	夏期集中	
		期末試験の実施	無	
授業に関する主な実務経験と期間	総合会津中央病院臨床心理室長 (昭和62年10月～平成6年9月)			
社会貢献としての委員会・職等	日本臨床心理士会代議員、日本福祉心理学会理事			
資格・免許及び所属学会等	筑波大学大学院教育研究科カウンセリング専攻修士課程修了 修士(カウンセリング) 臨床心理士、福祉心理士・日本心理臨床学会、日本箱庭療法学会			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門科目	選択		
公認心理師	専門科目	選択		
臨床心理士	専門科目	選択		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	授業の前後に質問等をお受けいたします。			

<b>【授業の概要】</b> この授業は、心理療法の一つである箱庭療法の理論と技法、さらには解釈と援助について学び習得することにあります。クライアントの非言語的表現をどう理解し受け止めるか、箱庭の制作体験を通して身につけていくこととなります。自分以外の人の作品制作のプロセスにたちあうことで、物語的流れについての理解も深めることとなります。感性を豊かに活用しながら、人の深層心理を深く理解して行けるよう、常に緊張を持続させながら、授業に参加することを求めます。	<b>【授業の概要及び到達目標との対応項目】</b>			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
	<input type="radio"/>	F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	J	多様性への理解力、応用力		
	K	課題対処力		
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
<b>【授業の到達目標】</b>	<b>【授業の概要・到達目標との対応項目】</b> (受講して得られる力)			
箱庭療法の基本的な知識を身につける	目標	A、C		
箱庭療法を行えるように感性を豊かにし、技法を身につける	目標	B、F		
箱庭作品から何を読み取ったかについての的確な見方ができるようにする	目標	I		

## 【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	箱庭療法の理論 (1)	資料をもとに歴史と展開について学ぶ	予習：教科書第1章をよく読んでくること
2	箱庭療法の理論 (2)	資料をもとに理論について学ぶ	予習：教科書第2章をよく読んでくること

3	箱庭療法の理論（3）	資料をもとに分析の基本について学ぶ	予習：教科書第3章をよく読んでくること
4	箱庭制作（1）	箱庭制作を行う	予習：理論や専門性だけでなく色々な知識を入れ込んでくること
5	箱庭制作（2）	制作された作品の検討を行う	予習：1～3回までに学習した理論について振り返っておくこと
6	箱庭制作（3）	箱庭制作を行う	予習：理論や専門性だけでなく色々な知識を入れ込んでくること
7	箱庭制作（4）	制作された作品の検討を行う	予習：1～3回までに学習した理論について振り返っておくこと
8	箱庭制作（5）	箱庭制作を行う	予習：理論や専門性だけでなく色々な知識を入れ込んでくること
9	箱庭制作（6）	制作された作品の検討を行う	予習：1～3回までに学習した理論について振り返っておくこと
10	箱庭制作（7）	箱庭制作を行う	予習：理論や専門性だけでなく色々な知識を入れ込んでくること
11	箱庭制作（8）	制作された作品の検討を行う	予習：1～3回までに学習した理論について振り返っておくこと
12	箱庭制作（9）	箱庭制作を行う	予習：理論や専門性だけでなく色々な知識を入れ込んでくること
13	箱庭制作（10）	制作された作品の検討を行う	予習：1～3回までに学習した理論について振り返っておくこと

14	事例を通して物語の展開を見ていく（1）	物語とイメージのつながりについて深める 事例に基づく検討	予習：イメージについて学習しておく
15	事例を通して物語の展開を見ていく（2）	物語とイメージのつながりについて深める 事例に基づく検討	予習：イメージについて学習しておく
<p><b>【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】</b>          目標 A および C：授業内での積極的発言（50 点満点）          目標 B、F および I：箱庭制作時のディスカッション（50 点満点）          これらを総合して評価します。このほか、評価に関する共通理解に則る加点・減点を行います。</p>			
<p><b>【教科書】</b> 書 名：箱庭療法入門          著者名：河合隼雄          発行所：誠信書房          価 格：2,000 円(税別)</p>			
<p><b>【参考書】</b> 書 名：こころのケアの基本          著者名：小俣和義編著          発行所：北樹出版          価 格：2,300 円(税別)</p>			
<p><b>【その他補足事項】</b>          授業に休まずに参加し、自分の持っている感性を余すことなく活用しましょう。作品に込められた深層心理の理解に努め、感じ考えたことを積極的に発言してください。</p>			

授業科目名	学校臨床心理学特論		授業形態・単位数	講義・2 単位
			開講年次	2 年次
担当教員	職名：教授 ふりがな すぎやまさひこ 氏名：杉山雅彦	開講期	前期	
		授業回数	15 回	
		期末試験の実施	無	
授業に関する主な実務経験と期間		あかつき心理相談研究所 顧問・指導相談員（平成 23 年 4 月～平成 27 年 3 月）		
社会貢献としての委員会・職 等		福島県いじめ問題対策委員会・委員長 認知行動療法学会、常任編集委員、編集委員会副委員長		
最終卒業（終了）学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等		筑波大学大学院博士課程心身障害学研究所 修了（教育学博士） 臨床心理士（臨床心理士資格認定協会）専門行動療法士（認知・行動療法学会） 認知・行動療法学会、行動分析学会、カウンセリング学会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門科目	選択	
公認心理師		専門科目	選択	
臨床心理士		専門科目	選択	
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60 時間	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 メールアドレス： sugiyama.masahiko@ fukushima-college.ac.jp		

<b>【授業の概要】</b> 学校という複雑な状況の中で、何が起きているのかあるいは心理学的には何が起きていると考えられるかに関して検討し、そういった状況に関してどのような関係、相互作用が成立し、機能するかに関して理解していきます。その上でケーススタディを行い、様々な状況あるいは問題に関して臨床心理学がどのような貢献をすることが出来るかを検討します。	<b>【授業の概要及び到達目標との対応項目】</b>			
	<input type="radio"/>	A	知識	
		B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力		
<input type="radio"/>	K	課題対処力		
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		

<b>【授業の到達目標】</b>		<b>【授業の概要・到達目標との対応項目】</b> (受講して得られる力)	
学校に関して臨床心理学的に基礎的、専門的な知識を習得する		目標	A
学校を多角的、実証的、総合的に理解する視点を持つ		目標	C,J
学校という状況に基づいて見立て及び介入するための基本的な力を養う		目標	K

<b>【授業計画】</b>			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション	オリエンテーション	復習：学校という状況に関する検討

2	学校という状況の分析	資料配付と講義、および学校という状況の特徴に関する議論	復習：授業内容の見直し
3	教師の機能	資料配付と講義、および学校という状況の特徴に関する議論	予習：教師に関する検討 復習：授業内容の見直し
4	幼児期と小学校	資料配付と講義、および学校という状況の特徴に関する議論	予習：幼児・児童期の検討 復習：授業内容の見直し
5	中学校	資料配付と講義、および学校という状況の特徴に関する議論	予習：中学校の特徴の検討 復習：授業内容の見直し
6	高校	資料配付と講義、および学校という状況の特徴に関する議論	予習：高校の特徴の検討 復習：授業内容の見直し
7	集団と行動の分析	資料配付と講義、および学校という状況の特徴に関する議論	予習：集団に関する検討 復習：授業内容の見直し
8	不登校	資料配付と講義、および学校という状況の特徴に関する議論	予習：不登校の検討 復習：授業内容の見直し
9	不登校ケーススタディ	ケース検討、議論	予習：ケースの検討 復習：ケースの見直し
10	いじめ	資料配付と講義、および学校という状況の特徴に関する議論	予習：いじめの検討 復習：授業内容の見直し ケースの検討
11	いじめケーススタディ	ケース討論、議論	復習：ケースの見直し
12	学級崩壊	ケース討論、議論	予習：学級崩壊の検討、 復習：ケース検討ケースの見直し
13	不良行為、粗暴行為	資料配付と講義、および学校という状況の特徴に関する議論	予習：不良行為に関する検討 復習：内容の見直し、 ケースの検討
14	不良行為ケーススタディ	ケース討論、議論	復習：ケースの見直し
15	学校という状況のまとめ	学校という状況の特徴と子どもに与える影響の議論	復習：授業の見直し

**【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】**

目標 A および C：授業期間中に、学校という状況に関するレポートを課します。  
学校という状況の理解、臨床的な介入に関する分析という観点から評価します。  
このレポートの評価を 60%とします。

目標 J および K：討論、議論への参加に関して、積極性、論理性、を主として評価します。  
この評価を 40%とします。

また、評価に関する共通理解に則る減点を総合点より行う場合があります。

**【教科書】** 使用しません。



# 心理学研究科臨床心理学専攻 授 業 計 画

2019 年度

授業科目名	心の健康教育に関する理論と実践	授業形態・単位数	講義・2単位
		開講年次	2年
担当教員	職名：講師 ふりがな きむら やすひろ 氏名：木村 泰博	開講期	前期
		授業回数	15回
		期末試験の実施	無
授業に関する主な実務経験と期間	茨城西南医療センター病院臨床心理士 (平成24年4月～平成27年3月)		
社会貢献としての委員会・職等	茨城県境町教育支援委員会教育支援委員 (平成25年10月～平成27年3月)		
最終修了学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等	早稲田大学大学院人間科学研究科修士課程修了、修士(人間科学) 公認心理師、臨床心理士、認定行動療法士、 日本認知・行動療法学会、日本行動医学会		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門科目	選択	
公認心理師	専門科目	必修	
臨床心理士	専門科目	選択	
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 メールアドレス：kimura.yasuhiro@fukushima-college.ac.jp		

<b>【授業の概要】</b> 本授業では、心の健康教育に関してその理論的枠組みやその方法論について学ぶ。特に心の健康教育プログラムを自ら実践できるようになるためには、できるだけ実践的な枠組みの中で理論的基盤を学ぶことが効率的であると考え、毎回ワークを取り入れ実際に学生が教授側に立ちながら進めていく。	<b>【授業の概要及び到達目標との対応項目】</b>		
	○	A	知識
		B	技術・技能
		C	論理的思考力
		D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	○	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J	多様性への理解力、応用力
		K	課題対処力
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
<b>【授業の到達目標】</b> 心の健康教育に関わる理論について説明できる。 心の健康教育プログラムを立案し、実践することができる。	<b>【授業の概要・到達目標との対応項目】</b> (受講して得られる力)		
	目標	A	
	目標	I	
	目標		

## 【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション		
2	第1章どれくらいストレスに圧倒されているのだろうか？	発表、ディスカッション	予習：発表資料の作成

3	第2章ストレスの影響	発表、ディスカッション	予習：発表資料の作成
4	第3章何があなたのストレスになるのか？	発表、ディスカッション	予習：発表資料の作成
5	第4章人生のストレスにどう対処できるだろうか？	発表、ディスカッション	予習：発表資料の作成
6	第5章人生の問題を解決する	発表、ディスカッション	予習：発表資料の作成
7	第6章効果的なコミュニケーション	発表、ディスカッション	予習：発表資料の作成
8	第7章時間管理	発表、ディスカッション	予習：発表資料の作成
9	第8章ストレスに満ちた思考を変える	発表、ディスカッション	予習：発表資料の作成
10	第9章身体をリラックスさせ、頭をはっきりさせる	発表、ディスカッション	予習：発表資料の作成
11	第10章健康なライフスタイルを保つ	発表、ディスカッション	予習：発表資料の作成
12	第11章職場のストレスマネジメント	発表、ディスカッション	予習：発表資料の作成
13	第12章対人関係と家庭のストレスマネジメント	発表、ディスカッション ワーク：プログラム立案	予習：健康教育プログラムの立案
14	第13章危機管理	発表、ディスカッション	予習：健康教育プログラムの改訂
15	第14章ストレスの少ないライフスタイル	発表、ディスカッション	復習：健康教育プログラムの振り返り
<p><b>【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】</b>  目標 A および I：発表のパフォーマンス（80点満点）、ディスカッションへの参加（20点満点）  また、評価に関する共通理解に則る減点を総合点より行う場合があります。</p>			
<p><b>【教科書】</b> 書名：ストレス軽減ワークブック  著者名：ジョナサン・S・アブラモウィッツ著／高橋祥友監訳  発行所：金剛出版  価格：3,600円(税別)</p>			

# 心理学研究科臨床心理学専攻 授 業 計 画

2019 年度

授業科目名	臨床心理査定演習Ⅰ (心理アセスメントに関する理論と実践)	授業形態・単位数	演習・2単位
		開講年次	1年次
担当教員	職名：講師 ふりがな きむら やすひろ 氏名：木村 泰博	開講期	前期
		授業回数	15回
		期末試験の実施	無
授業に関する主な実務経験と期間	茨城西南医療センター病院臨床心理士 (平成24年4月～平成27年3月)		
社会貢献としての委員会・職等	茨城県境町教育支援委員会教育支援委員 (平成25年10月～平成27年3月)		
最終修了学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等	早稲田大学大学院人間科学研究科修士課程修了、修士(人間科学) 公認心理師、臨床心理士、認定行動療法士、 日本認知・行動療法学会、日本行動医学会		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門科目	必修	
公認心理師	専門科目	必修	
臨床心理士	専門科目	必修	
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 メールアドレス：kimura.yasuhiro@fukushima-college.ac.jp		

<b>【授業の概要】</b> 本授業は以下の点を中心に、アセスメントの基礎知識と技法について学びます。 ①公認心理師の実践における心理的アセスメントの意義 ②心理的アセスメントに関する理論と方法 ③心理に関する相談、助言、指導等への上記①及び②の応用	<b>【授業の概要及び到達目標との対応項目】</b>		
	<input type="radio"/>	A	知識
	<input type="radio"/>	B	技術・技能
		C	論理的思考力
		D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J	多様性への理解力、応用力
		K	課題対処力
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力

<b>【授業の到達目標】</b> 心理的アセスメントに有用な情報(生育歴や家族の状況等)及びその把握の手法等について概説できる。 心理に関する支援を要する者等に対して、関与しながらの観察について、その内容を概説することができ、行うことができる。	<b>【授業の概要・到達目標との対応項目】</b> (受講して得られる力)	
	目標	A
	目標	A、B

<b>【授業計画】</b>			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 授業の概要と目標 評価方法・授業の進め方の留意点 心理的アセスメントの意義	授業計画 補足資料	

2	心理的アセスメントに関する理論と方法 心理的アセスメントの実践	補足資料	事前に補足資料を読む
3	臨床心理アセスメントを学ぶ	発表、ディスカッション	担当箇所をまとめる
4	面接技法としてのアセスメント	発表、ディスカッション	担当箇所をまとめる
5	事例から学ぶ①	発表、ディスカッション ケーススタディ	担当箇所をまとめる
6	臨床業務としての評価	発表、ディスカッション	担当箇所をまとめる
7	電話相談におけるアセスメント	発表、ディスカッション	担当箇所をまとめる
8	心理臨床学研究の方法論について思うこと	発表、ディスカッション	担当箇所をまとめる
9	事例から学ぶ②	発表、ディスカッション ケーススタディ	担当箇所をまとめる
10	心理士から医師に知っておいて欲しいこと さまざまな領域における多職種協働	発表、ディスカッション	担当箇所をまとめる
11	臨床心理士が心理面接を行うことの意味	発表、ディスカッション	担当箇所をまとめる
12	事例から学ぶ③ 事例から学ぶ④	発表、ディスカッション ケーススタディ	担当箇所をまとめる
13	自殺念慮のアセスメント	発表、ディスカッション	担当箇所をまとめる
14	本人不在の事例のアセスメント	発表、ディスカッション	担当箇所をまとめる
15	組織のアセスメント	発表、ディスカッション	担当箇所をまとめる
<p><b>【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】</b>          目標 A、B：小テスト 20 点満点          目標 A、B：発表及び討論への参加状況 60 点満点          目標 B：模擬演習の実技 20 点満点          また、評価に関する共通理解に則る減点を総合点より行う場合があります。</p>			
<p><b>【教科書】</b> 書 名：面接技術としての心理アセスメント          著者名：津川律子          発行所：金剛出版          価 格：3,000 円(税別)          ※教科書以外に適宜補足資料を用います。</p>			
<p><b>【参考書】</b> 書 名：事例で学ぶ臨床心理アセスメント入門          著者名：村瀬嘉代子・津川律子（編）          発行所：金剛出版          価 格：2400 円(税別)</p>			

授業科目名	臨床心理査定演習Ⅱ	授業形態・単位数	演習・2単位
		開講年次	1年次
担当教員	職名：教授 ふりがな 氏名：渡邊 勉 わたなべ つとむ	開講期	後期
		授業回数	15回
		期末試験の実施	無
授業に関する主な実務経験と期間		聖マリアンナ医科大学病院神経精神科心理技術員・臨床心理士（昭和57年1月～平成14年3月） 目白大学カウンセリングセンター相談員（平成14年4月～平成30年3月）	
社会貢献としての委員会・職 等		福島市自殺対策ネットワーク会議議長、日本心理臨床学会代議員	
資格・免許及び所属学会 等		上智大学大学院文学研究科教育学専攻博士課程修了、文学修士、博士（医学）、臨床心理士、日本精神分析学会認定心理療法士、公認心理師、心理臨床学会、日本ロールシャッハ学会	
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別
卒業		専門科目	必修
公認心理師		専門科目	選択
臨床心理士		専門科目	必修
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等		水曜日午後：福島駅前キャンパス研究室（401） tsutomu.watanabe@fukushima-college.ac.jp	

【授業の概要】 投映法人格検査（主にロールシャッハ法、SCTおよびバウム・テスト）の理論および実施法、分析法、解釈法を学びます。まず受講生自身が被検査者体験をもち、その後に検査者として検査を実施できることを目指す。投映法をツールとしてクライアントを理解する方法論に習熟します。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】		
	<input type="radio"/>	A	知識
	<input type="radio"/>	B	技術・技能
		C	論理的思考力
	<input type="radio"/>	D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	J	多様性への理解力、応用力	
<input type="radio"/>	K	課題対処力	
<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
心理査定の施行から分析・解釈、報告書作成、フィードバック・セッションまでの一連の流れを理解し、実施できる		目標	A、B、D、I
心理査定の施行に関わる倫理を理解し、実践できる		目標	L
ロールシャッハ・テストその他の投映法を臨床場面で施行できる		目標	B、K

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 投映法について	ディスカッション	
2	ロールシャッハ法① 実施法・カード図版について	資料配布 担当者発表	予習：資料学習 担当者準備
3	ロールシャッハ法② 反応領域	資料配布 担当者発表	予習：資料学習 担当者準備
4	ロールシャッハ法③ 反応決定因（形態・運動）	資料配布 担当者発表	予習：資料学習 担当者準備
5	ロールシャッハ法④ 反応決定因（色彩・陰影）	資料配布 担当者発表	予習：資料学習 担当者準備
6	ロールシャッハ法⑤ 反応内容	資料配布 担当者発表	予習：資料学習 担当者準備
7	ロールシャッハ法⑥ 形態水準	資料配布 担当者発表	予習：資料学習 担当者準備
8	ロールシャッハ法⑦ 文献研究	資料配布 担当者発表	予習：資料学習 担当者準備
9	ロールシャッハ法⑧ スコアリング演習	資料配布 担当者発表	予習：資料学習 担当者準備
10	ロールシャッハ法⑨ 解釈演習1	資料配布 担当者発表	予習：資料学習 担当者準備
11	ロールシャッハ法⑩ 解釈演習2	資料配布 担当者発表	予習：資料学習 担当者準備
12	ロールシャッハ法⑪ 事例研究1	資料配布 担当者発表	予習：資料学習 担当者準備
13	ロールシャッハ法⑫ 事例研究2	資料配布 担当者発表	予習：資料学習 担当者準備
14	ロールシャッハ法⑬ 事例研究3	資料配布 担当者発表	予習：資料学習 担当者準備
15	まとめ	課題レポートの作成および提出	

【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】

目標A、B、D、IおよびK：心理検査報告書レポートの完成度（論理の一貫性、形式、解釈）70%点満点  
 目標L：授業参加態度（被験者体験、積極的発言、意欲、主体性）30点満点  
 また、評価に関する共通理解に則る減点を総合点より行う場合があります。

<p><b>【教科書】</b> 書名：改訂 新・心理診断法      著者名：片口安史      発行所：金子書房      価格：9,500円(税別)</p>	
<p><b>【参考書】</b> 書名：ロールシャッハ・テストの体験的基礎      著者名：E.G.シャハテル      発行所：みすず書房      価格：4,500円(税別)</p>	
<p><b>【その他補足事項】</b>  <u>教科書は教員の指示があるまで購入しないでください。</u></p>	

授業科目名	臨床心理基礎実習		授業形態・単位数	実習・2単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：教授 氏名：杉山 雅彦 <small>すぎやま まさひこ</small>	開講期	通年	
	職名：教授 氏名：岸 良範 <small>きし よしのり</small>	授業回数	30回	
	職名：准教授 氏名：佐藤 佑貴 <small>さとう ゆうき</small>	期末試験の有無	無	
授業に関する主な実務経験と期間		杉山：あかつき心理相談研究所 顧問・指導相談員 (平成23年4月～平成27年3月) 岸：愛知教育大学、茨城大学、各臨床心理相談室相談員他 (平成12年4月～平成29年3月) 佐藤：福島学院大学大学院附属心理臨床相談センター相談員 (平成19年4月～現在)		
社会貢献としての委員会・職 等		杉山：福島県いじめ問題対策委員会・委員長 認知行動療法学会、常任編集委員、編集委員会副委員長 岸：日本臨床心理士資格認定協会理事、 専門職大学院認証評価判定委員会副委員長他 佐藤：福島市教育委員会 特別支援教育指導員		
最終修了学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等		杉山：筑波大学大学院博士課程心身障害学専攻科 修了(教育学博士) 臨床心理士、専門行動療法士(認知・行動療法学会) 認知・行動療法学会、行動分析学会、カウンセリング学会 岸：早稲田大学大学院文学研究科社会学専攻修士課程修了 文学修士 臨床心理士、心理臨床学会、箱庭療法学会、精神分析学会 佐藤：群馬大学大学院教育学研究科修了、修士(教育学) 公認心理師、臨床心理士、小学校教員専修免許状		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
修了		専門科目	必修	
公認心理師		専門科目	選択	
臨床心理士		専門科目	必修	
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 杉山：sugiyama.masahiko@fukushima-college.ac.jp. 岸：kishi.yoshinori@fukushima-college.ac.jp 佐藤：sato.yuhki@fukushima-college.ac.jp		

<p><b>【授業の概要】</b></p> <p>前期は、心理臨床実践のための基礎的な技術を学びます。面接がどのように進行していくのか、そのプロセスに注目し、ケーススタディとロールプレイによって考察を深めます。</p> <p>後期は、心理臨床相談センターにおいて、新規クライアントに対して教員が行う受理面接の陪席し、授業において問題の所在と見立て、今後の方針等について見解をまとめ、1事例ごとに全体で検討を行います。授業は15回中の2回は心理臨床相談センターにおける陪席に当てられます。</p> <p>前期は岸と佐藤が、後期は杉山と佐藤が担当します。</p>	<b>【授業の概要及び到達目標との対応項目】</b>			
		A	知識	
	○	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	○	J	多様性への理解力、応用力	
	K	課題対処力		
○	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		



【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
カウンセリングの対象を多角的・実証的・総合的に理解する視点を持つ。	目標	J
問題の発見および解決の具体的方針を提案できる力の基礎を持つ。	目標	B
臨床的支援の対象に関して見立て及び介入を行うための基礎を身につける	目標	L
	目標	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	基礎実習の進め方についてのオリエンテーション	講義	
2	症例理解のためのオリエンテーション	講義	予習：指定された文献及び論文の検討
3/4	症例理解のための実習（事例研究）Ⅰ 幼児期・児童期の事例の検討	ケースプレゼンテーションに対するディスカッション	予習：指定された文献及び論文の検討
5/6	症例理解のための実習（事例研究）Ⅱ 思春期・青年期の事例の検討	ケースプレゼンテーションに対するディスカッション	予習：指定された文献及び論文の検討
7/8	症例理解のための実習（事例研究）Ⅲ 成人期以降の事例の検討	ケースプレゼンテーションに対するディスカッション	予習：指定された文献及び論文の検討
9/10	事例検討から見えてきた面接技法のポイントの確認①	小講義及びグループにおけるディスカッション	予習：指定された文献及び論文の検討
11～ 15	面接技法の実習（ロールプレイ）	ロールプレイ及びその振り返り	予習：指定された文献及び論文の検討
16	後期オリエンテーション	オリエンテーション	復習：臨床の対象に関する理解発表準備
17	子どもに関する臨床 発表	発表と議論	復習：議論の見直し
18	発達障害に関する臨床 発表	発表と議論	予習：発表準備
19	うつという問題 発表	発表と議論	議論の見直し 発表準備 復習：議論の見直し
20	不安という問題 発表	発表と議論	議論の見直し 発表準備 復習：議論の見直し
21	インテイク報告 発表	発表と議論	議論の見直し 発表準備 復習：議論の見直し
22	インテイク報告 発表	発表と議論	議論の見直し 発表準備 復習：議論の見直し

23	インテイク報告 発表	発表と議論	議論の見直し 発表準備 復習：議論の見直し
24	インテイク報告 発表	発表と議論	議論の見直し 発表準備 復習：議論の見直し
25	インテイク報告 発表	発表と議論	議論の見直し 発表準備 復習：議論の見直し
26	インテイク報告 発表	発表と議論	議論の見直し 発表準備 復習：議論の見直し
27	インテイク報告 発表	発表と議論	議論の見直し 発表準備 復習：議論の見直し
28	インテイク報告 発表	発表と議論	議論の見直し 発表準備 復習：議論の見直し
29	心理臨床相談センターにおいて、2回のインテイクに陪席する 授業の2回分はその陪席、観察、スーパーバイズに当てる		復習：インテイクのまとめ
30	同上		復習：インテイクのまとめ
<p><b>【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】</b>          目標 B：ケースの振り返りレポート（50点満点）          目標 J および L：2回のインテイク報告の発表が、多角的、実証的、総合的であるか（40点満点）。          発表に関する議論へ積極性と、論理性（10点満点）          また、評価に関する共通理解に則る減点を総合点より行う場合があります。</p>			
<p><b>【教科書】</b> 使用しません。</p>			
<p><b>【その他補足事項】</b>          本科目は、(財)日本臨床心理士資格認定協会、大学院指定制(第1種)申請の手引に基づき、1週1回3時間(2コマ180分)の授業15回をもって1単位とします。つまり、上記授業内容における回数は、1回2コマとなります。</p>			

授業科目名	臨床心理実習Ⅰ (心理実践実習A)		授業形態・単位数	実習・1単位
			開講年次	2年次
担当教員	職名：教授 氏名： <sup>わたなべ つとむ</sup> 渡邊 勉 職名：講師 氏名： <sup>きむら やすひろ</sup> 木村 泰博	開講期	前期	
		授業回数	15回	
		期末試験の実施	無	
授業に関する主な実務経験と期間		渡邊：聖マリアンナ医科大学病院神経精神科心理技術員・臨床心理士（昭和57年1月～平成14年3月）、目白大学カウンセリングセンター相談員（平成14年4月～平成30年3月） 木村：茨城西南医療センター病院臨床心理士（平成24年4月～平成27年3月）		
社会貢献としての委員会・職等		渡邊：福島市自殺対策ネットワーク会議議長、日本心理臨床学会代議員 木村：茨城県境町教育支援委員会教育支援委員（平成25年10月～平成27年3月）		
資格・免許及び所属学会等		渡邊：上智大学大学院文学研究科教育学専攻博士後期課程修了、文学修士、博士（医学）、臨床心理士、日本精神分析学会認定心理療法士、公認心理師、心理臨床学会、森田療法学会 木村：早稲田大学大学院人間科学研究科修士課程修了、修士（人間科学）公認心理師、臨床心理士、認定行動療法士、日本認知・行動療法学会、日本行動医学会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
修了		専門科目	必修	
公認心理師		専門科目	選択	
臨床心理士		専門科目	必修	
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	15時間	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 渡邊：tsutomu.watanabe@fukushima-college.ac.jp 木村：kimra.yasuhiro@fukushima-college.ac.jp		
【授業の概要】 本科目は、「学内附属施設心理臨床相談センターでの実習」、「センターケースカンファレンスへの参加」の2つの内容で構成されます。このうち、「相談センターでの実習」は授業時間外に行われます。なお本科目は、(財)日本臨床心理士資格認定協会、大学院指定制（第1種）申請の手引に基づき、1週1回3時間（2コマ180分）の授業15回をもって1単位とします。つまり、上記授業内容における回数は、1回2コマとなります。		【授業の概要及び到達目標との対応項目】		
		○	A 知識	
			B 技術・技能	
			C 論理的思考力	
			D 文章表現力	
			E 表情及び身体表現力	
			F 感性及び感動表現力	
			G 協働能力	
			H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
			I 積極的発言力及びプレゼンテーション力	
			J 多様性への理解力、応用力	
			K 課題対処力	
			L 人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
心理に関する支援を要する者等に対して適切なコミュニケーションが取れる。		目標	B	
心理に関する支援を要する者等のニーズを把握し支援計画を作成することができる。		目標	B	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ ラーニングの方法)及び、 授業で使用する教材等	授業時間以外 の必要な学修 【予習・復習】
1	心理臨床相談センターでの実習	センターでのケースとの 関わり	実習報告書の作成 提出
2	ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーショ ンとディスカッション	発表資料の作成
3	心理臨床相談センターでの実習	センターでのケースとの 関わり	実習報告書の作成 提出
4	ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーショ ンとディスカッション	発表資料の作成
5	心理臨床相談センターでの実習	センターでのケースとの 関わり	実習報告書の作成 提出
6	ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーショ ンとディスカッション	発表資料の作成
7	心理臨床相談センターでの実習	センターでのケースとの 関わり	実習報告書の作成 提出
8	ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーショ ンとディスカッション	発表資料の作成
9	心理臨床相談センターでの実習	センターでのケースとの 関わり	実習報告書の作成 提出
10	ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーショ ンとディスカッション	発表資料の作成
11	心理臨床相談センターでの実習	センターでのケースとの 関わり	実習報告書の作成 提出
12	ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーショ ンとディスカッション	発表資料の作成
13	心理臨床相談センターでの実習	センターでのケースとの 関わり	実習報告書の作成 提出
14	ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーショ ンとディスカッション	発表資料の作成
15	心理臨床相談センターでの実習	センターでのケースとの 関わり	実習報告書の作成 提出
<p>【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】</p> <p>目標 B：ケースカンファレンスでの発表（50点満点）、スーパーバイザーによる評価（50点満点） また、評価に関する共通理解に則る減点を総合点より行う場合があります。</p>			
<p>【教科書】 使用しません。</p>			

**【その他補足事項】**

本科目は平成 30 年度以降入学生が対象です。平成 29 年度以前入学生は「臨床心理実習」を履修してください。

臨床心理実習Ⅱとあわせて心理アセスメント 3 ケース以上、心理面接（含む遊戯療法）3 ケース以上（あるいは計 45 セッション以上）を担当します。実習を行った際には実習報告書を提出してください。報告書の提出がない場合は実習としては認められません。

授業科目名	臨床心理実習Ⅱ		授業形態・単位数	実習・1単位
			開講年次	2年次
担当教員	職名：教授 氏名： <sup>わたなべ つとむ</sup> 渡邊 勉 職名：講師 氏名： <sup>きむら やすひろ</sup> 木村 泰博	開講期	後期	
		授業回数	15回	
		期末試験の実施	無	
授業に関する主な実務経験と期間		渡邊：聖マリアンナ医科大学病院神経精神科心理技術員・臨床心理士（昭和57年1月～平成14年3月）、目白大学カウンセリングセンター相談員（平成14年4月～平成30年3月） 木村：茨城西南医療センター病院臨床心理士（平成24年4月～平成27年3月）		
社会貢献としての委員会・職等		渡邊：福島市自殺対策ネットワーク会議議長、日本心理臨床学会代議員 木村：茨城県境町教育支援委員会教育支援委員（平成25年10月～平成27年3月）		
資格・免許及び所属学会等		渡邊：上智大学大学院文学研究科教育学専攻博士後期課程修了、文学修士、博士（医学）、臨床心理士、日本精神分析学会認定心理療法士、公認心理師、心理臨床学会、森田療法学会 木村：早稲田大学大学院人間科学研究科修士課程修了、修士（人間科学）公認心理師、臨床心理士、認定行動療法士、日本認知・行動療法学会、日本行動医学会		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
修了	専門科目	必修		
公認心理師	専門科目	選択		
臨床心理士	専門科目	必修		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	15時間	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 渡邊：tsutomu.watanabe@fukushima-college.ac.jp 木村：kimra.yasuhiro@fukushima-college.ac.jp		
【授業の概要】 本科目は、「学内附属施設心理臨床相談センターでの実習」、「センターケースカンファレンスへの参加」の2つの内容で構成されます。このうち、「相談センターでの実習」は授業時間外に行われます。なお本科目は、(財)日本臨床心理士資格認定協会、大学院指定制（第1種）申請の手引に基づき、1週1回3時間（2コマ180分）の授業15回をもって1単位とします。つまり、上記授業内容における回数は、1回2コマとなります。		【授業の概要及び到達目標との対応項目】		
		○	A	知識
			B	技術・技能
			C	論理的思考力
			D	文章表現力
			E	表情及び身体表現力
			F	感性及び感動表現力
			G	協働能力
			H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
			I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
			J	多様性への理解力、応用力
	K	課題対処力		
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
心理に関する支援を要する者等に対して適切なコミュニケーションが取れる。		目標	B	
心理に関する支援を要する者等のニーズを把握し支援計画を作成することができる。		目標	B	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	心理臨床相談センターでの実習	センターでのケースとの関わり	実習報告書の作成, 提出
2	ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
3	心理臨床相談センターでの実習	センターでのケースとの関わり	実習報告書の作成, 提出
4	ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
5	心理臨床相談センターでの実習	センターでのケースとの関わり	実習報告書の作成, 提出
6	ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
7	心理臨床相談センターでの実習	センターでのケースとの関わり	実習報告書の作成, 提出
8	ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
9	心理臨床相談センターでの実習	センターでのケースとの関わり	実習報告書の作成, 提出
10	ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
11	心理臨床相談センターでの実習	センターでのケースとの関わり	実習報告書の作成, 提出
12	ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
13	心理臨床相談センターでの実習	センターでのケースとの関わり	実習報告書の作成, 提出
14	ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
15	心理臨床相談センターでの実習	センターでのケースとの関わり	実習報告書の作成, 提出
<p>【授業の到達目標に応ずる到達度の評価 (評価方法・基準)】</p> <p>目標 B: ケースカンファレンスでの発表 (50 点満点)、スーパーバイザーによる評価 (50 点満点) また、評価に関する共通理解に則る減点を総合点より行う場合があります。</p>			
<p>【教科書】 使用しません。</p>			

**【その他補足事項】**

本科目は平成 30 年度以降入学生が対象です。平成 29 年度以前入学生は「臨床心理実習」を履修してください。

臨床心理実習 I とあわせて心理アセスメント 3 ケース以上、心理面接（含む遊戯療法）3 ケース以上（あるいは計 45 セッション以上）を担当します。実習を行った際には実習報告書を提出してください。報告書の提出がない場合は実習としては認めません。



授業科目名	心理実践実習 B		授業形態・単位数	実習・5 単位
			開講年次	1 年次
担当教員	職名：教授 氏名：岸 良範 職名：准教授 氏名：佐藤 佑貴	開講期	通年	
		授業回数	実習 225 時間以上	
		期末試験の有無	無	
授業に関する主な実務経験と期間		岸：愛知教育大学、茨城大学、各臨床心理相談室相談員他 (平成 12 年 4 月～平成 29 年 3 月) 佐藤：福島学院大学大学院附属心理臨床相談センター相談員 (平成 19 年 4 月～現在)		
社会貢献としての委員会・職 等		岸：日本臨床心理士資格認定協会理事、 専門職大学院認証評価判定委員会副委員長他 佐藤：福島市教育委員会 特別支援教育指導員		
最終修了学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等		岸：早稲田大学大学院文学研究科社会学専攻修士課程修了 文学修士 臨床心理士、心理臨床学会、箱庭療法学会、精神分析学会 佐藤：群馬大学大学院教育学研究科修了、修士(教育学) 公認心理師、臨床心理士、小学校教員専修免許状		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
修了		専門科目	選択	
臨床心理士		専門科目	選択	
公認心理師		専門科目	必修	
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	—	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 岸：kishi.yoshinori@fukushima-college.ac.jp 佐藤：sato.yuhki@fukushima-college.ac.jp		

<b>【授業の概要】</b> 本科目は、「学内附属施設心理臨床相談センターでの実習」、「学外実習施設での実習」、「カンファレンス」の 3 つの内容で構成されます。このうち、「カンファレンス(学外・学内両実習)」以外は授業時間外に行われます。 学内実習は通年で陪席実習を中心に行います。学外実習は、医療・福祉・司法各領域の専門機関における見学実習(前期)と同機関におけるケース担当実習(後期)に分かれます。また、各機関の実習後に担当業務やケースについてのカンファレンスを実施します。	<b>【授業の概要及び到達目標との対応項目】</b>			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	J	多様性への理解力、応用力		
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
<b>【授業の到達目標】</b>			<b>【授業の概要・到達目標との対応項目】</b> (受講して得られる力)	
検査法・面接法等によりケースのアセスメントができる。			目標	A, J
ケースについての支援計画が策定できる。			目標	J
学外実習施設において、他職種および地域との連携について学ぶ。			目標	A
公認心理師としての職業倫理および法的義務について説明できる。			目標	A

<b>【授業計画】</b>	授業テーマ・授業内容
---------------	------------

**【授業内容】**

- ① 本科目では 225 時間の実習を行います。内訳はケースカンファレンス等、時間割内に行うものが 60 時間、陪席実習および見学実習等時間割外に行うものが 165 時間となります。
- ② 学外実習は、医療・福祉・司法の 3 領域にわたる見学と福祉領域のケース担当実習です。実習時期・日程等についての仔細は別途案内します。
- ③ 学内実習は陪席実習とケースカンファレンスを中心に行います。実習時期・日程等についての仔細は別途案内します。

**【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】**

目標 A: ケースプレゼンテーション(レジュメの形式及びケースの見立て・方針の明瞭さ) 20 点満点

目標 J: 実習の取り組み(実習回数、実習日誌の提出、参加態度など) 80 点満点

また、評価に関する共通理解に則る減点を総合点より行う場合があります。

**【教科書】** 使用しません。

**【その他補足事項】**

実習を行った際には実習報告書を提出してください。報告書の提出がない場合は実習としては認めません。

外部実習では、実習委託費として1日あたり 1000 円を実費徴収します。

# 心理学研究科臨床心理学専攻 授 業 計 画

2019 年度

授業科目名	心理実践実習 C		授業形態・単位数	実習・4 単位
			開講年次	2 年次
担当教員	職名：教授 氏名：杉山雅彦 <small>すぎやままさひこ</small>	開講期	通年	
		授業回数	実習 180 時間以上	
		期末試験の有無	無	
授業に関する主な実務経験と期間		あかつき心理相談研究所 顧問・指導相談員 (平成 23 年 4 月～平成 27 年 3 月)		
社会貢献としての委員会・職 等		福島県いじめ問題対策委員会・委員長 認知行動療法学会、常任編集委員、編集委員会副委員長		
最終卒業（終了）学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等		筑波大学大学院博士課程心身障害学専攻 修了（教育学博士） 臨床心理士（臨床心理士資格認定協会）専門行動療法士（認知・行動療法学会） 認知・行動療法学会、行動分析学会、カウンセリング学会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門科目	選択	
公認心理師		専門科目	必修	
臨床心理士		専門科目	選択	
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	—	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 メールアドレス： sugiyama.masahiko@ fukushima-college.ac.jp		

<b>【授業の概要】</b> 本科目は、「学内附属施設心理臨床相談センターでのケース担当実習」、「学外実習施設でのケース担当実習」で構成されます。 学内実習は通年でケース担当し、臨床心理学的支援の実践を行います。学外実習は、医療領域の専門機関におけるケース担当実習を行います。また、各機関の実習後に担当業務やケースについてのカンファレンスを実施します。	<b>【授業の概要及び到達目標との対応項目】</b>			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
<input type="radio"/>	K	課題対処力		
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
<b>【授業の到達目標】</b>			<b>【授業の概要・到達目標との対応項目】</b> (受講して得られる力)	
検査法・面接法等によりケースのアセスメントができる。			目標	A,J
ケースについての支援計画が策定できる。			目標	J
学外実習施設において、他職種および地域との連携について学ぶ。			目標	A
公認心理師としての職業倫理および法的義務について説明できる。			目標	A

## 【授業計画】

授業テーマ・授業内容	
<b>【授業内容】</b>	
・本科目では 180 時間の実習を行います。内訳は学内のケース担当実習が 36 時間、学外のケース担当実習が 144 時間となります。 ・学外実習は、医療領域のケース担当実習(10 日間×2 機関)となります。学外実習には、実習前後の担当業務	

やケースに関するカンファレンスを含みます。実習時期・日程等についての仔細は別途案内します。

**【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】**

目標 A: ケースプレゼンテーション(レジユメの形式及びケースの見立て・方針の明瞭さ) 20 点満点

目標 J: 実習の取り組み(実習回数、実習日誌の提出、参加態度など)80 点満点

**【教科書】** 使用しません。

**【その他補足事項】**

実習を行った際には実習報告書を提出してください。報告書の提出がない場合は実習としては認めません。

外部実習では、実習委託費として1日あたり 1000 円を実費徴収します。

授業科目名	臨床心理実習		授業形態・単位数	実習・2単位
			開講年次	2年次
担当教員	職名：教授 氏名： <sup>わたなべ つとむ</sup> 渡邊 勉 職名：講師 氏名： <sup>きむら やすひろ</sup> 木村 泰博	開講期	通年	
		授業回数	30回	
		期末試験の有無	無	
授業に関する主な実務経験と期間		渡邊：聖マリアンナ医科大学病院神経精神科心理技術員・臨床心理士（昭和57年1月～平成14年3月）、目白大学カウンセリングセンター相談員（平成14年4月～平成30年3月） 木村：茨城西南医療センター病院臨床心理士（平成24年4月～平成27年3月）		
社会貢献としての委員会・職 等		渡邊：福島市自殺対策ネットワーク会議議長、日本心理臨床学会代議員 木村：茨城県境町教育支援委員会教育支援委員（平成25年10月～平成27年3月）		
資格・免許及び所属学会 等		渡邊：上智大学大学院文学研究科教育学専攻博士後期課程修了、文学修士、博士（医学）、臨床心理士、日本精神分析学会認定心理療法士、公認心理師、心理臨床学会、森田療法学会 木村：早稲田大学大学院人間科学研究科修士課程修了、修士（人間科学）公認心理師、臨床心理士、認定行動療法士、日本認知・行動療法学会、日本行動医学会		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
修了	専門科目	必修		
臨床心理士	専門科目	必修		
公認心理師	専門科目	選択		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 渡邊：tsutomu.watanabe@fukushima-college.ac.jp 木村：kimra.yasuhiro@fukushima-college.ac.jp		
【授業の概要】 本科目は、「学内附属施設心理臨床相談センターでの実習」、「センターケースカンファレンスへの参加」の2つの内容で構成されます。このうち、「相談センターでの実習」は授業時間外に行われます。なお本科目は、(財)日本臨床心理士資格認定協会、大学院指定制（第1種）申請の手引に基づき、1週1回3時間（2コマ180分）の授業15回をもって1単位とします。つまり、上記授業内容における回数は、1回2コマとなります。		【授業の概要及び到達目標との対応項目】		
		○	A 知識	
	B 技術・技能			
	C 論理的思考力			
	D 文章表現力			
	E 表情及び身体表現力			
	F 感性及び感動表現力			
	G 協働能力			
	H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力			
	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力			
	J 多様性への理解力、応用力			
	K 課題対処力			
	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力			
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
心理に関する支援を要する者等に対して適切なコミュニケーションが取れる。		目標	B	
心理に関する支援を要する者等に対して適切なコミュニケーションが取れる。		目標	B	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	心理臨床相談センターでの実習	センターでのケースとの関わり	実習報告書の作成, 提出
2	ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
3	心理臨床相談センターでの実習	センターでのケースとの関わり	実習報告書の作成, 提出
4	ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
5	心理臨床相談センターでの実習	センターでのケースとの関わり	実習報告書の作成, 提出
6	ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
7	心理臨床相談センターでの実習	センターでのケースとの関わり	実習報告書の作成, 提出
8	ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
9	心理臨床相談センターでの実習	センターでのケースとの関わり	実習報告書の作成, 提出
10	ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
11	心理臨床相談センターでの実習	センターでのケースとの関わり	実習報告書の作成, 提出
12	ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
13	心理臨床相談センターでの実習	センターでのケースとの関わり	実習報告書の作成, 提出
14	ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
15	心理臨床相談センターでの実習	センターでのケースとの関わり	実習報告書の作成, 提出
16	ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
17	外部実習	外部実習先での活動	実習報告書の作成, 提出
18	外部実習	外部実習先での活動	実習報告書の作成, 提出

19	外部実習	外部実習先での活動	実習報告書の作成, 提出
20	外部実習	外部実習先での活動	実習報告書の作成, 提出
21	外部実習	外部実習先での活動	実習報告書の作成, 提出
22	ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
23	心理臨床相談センターでの実習	センターでのケースとの関わり	実習報告書の作成, 提出
24	ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
25	心理臨床相談センターでの実習	センターでのケースとの関わり	実習報告書の作成, 提出
26	ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
27	心理臨床相談センターでの実習	センターでのケースとの関わり	実習報告書の作成, 提出
28	ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
29	心理臨床相談センターでの実習	センターでのケースとの関わり	実習報告書の作成, 提出
30	ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成

【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】

目標 B：ケースカンファレンスでの発表 50 点満点、スーパーバイザーによる評価 50 点満点

【教科書】使用しません。

【その他補足事項】

本科目は平成 29 年度以前入学生用の科目です。

心理アセスメント3ケース以上、心理面接(含む遊戯療法)3ケース以上(あるいは計 45 セッション以上)を担当していただきます。

実習を行った際には実習報告書を提出してください。報告書の提出がない場合は実習としては認めません。外部実習施設での実習時期・日程等についての仔細は別途案内します。その際、実習委託費として1日あたり 1000 円を実費徴収します。

# 心理学研究科臨床心理学専攻 授 業 計 画

2019 年度

授業科目名	発達障害児援助実習	授業形態・単位数	実習・2単位
		開講年次	2年次
担当教員	職名：客員教授 氏名：板垣 健太郎 <small>いたがき けんたろう</small>	開講期	通年
		授業回数	30回
		期末試験の有無	無
授業に関する主な実務経験と期間		(社福)富岳会富岳学園(知的障害児通園施設)園長(昭和60年4月~平成元年3月)	
社会貢献としての委員会・職等		福島県社会福祉会保育士研修会講師(平成11年4月~平成12年3月)	
最終卒業(修了)学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		筑波大学大学院博士課程心身障害学研究科知能障害専攻単位取得後退学、修士(教育学)	
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別
修了		専門科目	必修
臨床心理士		専門科目	必修
公認心理師		専門科目	選択
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間
オフィスアワー・メールアドレス等	授業の前後に質問等の対応をいたします。		

<b>【授業の概要】</b> アスペルガー障害、高機能自閉症、ADHD(注意欠陥/多動性障害)等の発達障害を抱える子ども、発達が気になる子どもを対象として、心理臨床相談センターにおいて発達援助実習を行います。基本的に子ども一人ひとりに対する個別的な行動療法的アプローチを中心として、子どもたちの対人的交流や社会生活上の適応的行動を援助し、伸ばしていくことをねらいます。センター実習と全体での事例検討を綿密に繰り返し、履修者全員の事例検討力、臨床実践力を高めていくこともねらいます。	<b>【授業の概要及び到達目標との対応項目】</b>		
	A	知識	
	B	技術・技能	
	C	論理的思考力	
	D	文章表現力	
	E	表情及び身体表現力	
	○	F 感性及び感動表現力	
		G 協働能力	
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	○	J 多様性への理解力、応用力	
		K 課題対処力	
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力	
<b>【授業の到達目標】</b>		<b>【授業の概要・到達目標との対応項目】</b> (受講して得られる力)	
発達障害とその発達援助について確かな視座をもち、対象者支援に臨むことができる。		目標	J
事例個々について適切な見立てと援助を行う臨床実践力を身につける。		目標	J
援助者として対象者に関わる態度や心構え、さらには援助し関わることの面白さと難しさを学ぶ。		目標	F

<b>【授業計画】</b>			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修 <b>【予習・復習】</b>
1	オリエンテーション		



2	事前学習① (発達障害児への発達援理解、対象児のアセスメントと援助方針立案)	事例に関するプレゼンテーションおよびディスカッション	発表資料の作成
3	事前学習② (発達障害児への発達援理解、対象児のアセスメントと援助方針立案)	事例に関するプレゼンテーションおよびディスカッション	発表資料の作成
4	事前学習③ (発達障害児への発達援理解、対象児のアセスメントと援助方針立案)	事例に関するプレゼンテーションおよびディスカッション	発表資料の作成
5	事前学習④ (発達障害児への発達援理解、対象児のアセスメントと援助方針立案)	事例に関するプレゼンテーションおよびディスカッション	発表資料の作成
6	心理臨床相談センター実習① (発達援助実習、セッション記録作成、次回セッション原案作成)		実習報告書の作成、提出
7	事例検討①	事例担当者による発表と全体議論	発表資料の作成
8	事例検討②	事例担当者による発表と全体議論	発表資料の作成
9	心理臨床相談センター実習② (発達援助実習、セッション記録作成、次回セッション原案作成)		実習報告書の作成、提出
10	事例検討③	事例担当者による発表と全体議論	発表資料の作成
11	事例検討④	事例担当者による発表と全体議論	発表資料の作成
12	心理臨床相談センター実習③ (発達援助実習、セッション記録作成、次回セッション原案作成)		実習報告書の作成、提出
13	事例検討⑤	事例担当者による発表と全体議論	発表資料の作成
14	事例検討⑥	事例担当者による発表と全体議論	発表資料の作成
15	心理臨床相談センター実習④ (発達援助実習、セッション記録作成、次回セッション原案作成)		実習報告書の作成、提出
16	事例検討⑦	事例担当者による発表と全体議論	発表資料の作成
17	事例検討⑧	事例担当者による発表と全体議論	発表資料の作成
18	心理臨床相談センター実習⑤ (発達援助実習、セッション記録作成、次回セッション原案作成)		実習報告書の作成、提出
19	事例検討⑨	事例担当者による発表と全体議論	発表資料の作成

20	事例検討⑩	事例担当者による発表と全体議論	発表資料の作成
21	心理臨床相談センター実習⑥ (発達援助実習、セッション記録作成、次回セッション原案作成)		実習報告書の作成、提出
22	事例検討⑪	事例担当者による発表と全体議論	発表資料の作成
23	事例検討⑫	事例担当者による発表と全体議論	発表資料の作成
24	心理臨床相談センター実習⑦ (発達援助実習、セッション記録作成、次回セッション原案作成)		実習報告書の作成、提出
25	事例検討⑬	事例担当者による発表と全体議論	発表資料の作成
26	事例検討⑭	事例担当者による発表と全体議論	発表資料の作成
27	心理臨床相談センター実習⑧ (発達援助実習、セッション記録作成、次回セッション原案作成)		実習報告書の作成、提出
28	事例検討⑮	事例担当者による発表と全体議論	発表資料の作成
29	事例検討⑯	事例担当者による発表と全体議論	発表資料の作成
30	まとめ－実習総括、個々の振り返り	全体議論	

**【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】**

目標 F：センター実習での取り組み（適切な見立てに基づく効果的な援助ができているかどうか）50点満点

目標 J：授業参加態度（意欲・主体性）50点満点

また、評価に関する共通理解に則る減点を総合点より行う場合があります。

**【教科書】** 使用しません。

**【その他補足事項】**

本科目は平成29年度以前入学生用の科目です。

臨床実践力を高めるためには、実習による学びが非常に有効です。上記に定める実習時間は単位認定にかかる最低時間数ですので、積極的に実習に取り組んでいただくことを望みます。また、心理的支援の進行の都合によっても、上記に定める実習時間以上に実習を担当していただくことがあります。

# 心理学研究科臨床心理学専攻 授 業 計 画

2019 年度

授業科目名	臨床心理課題研究 I	授業形態・単位数	演習・2 単位
		開講年次	1 年次
担当教員	職名：教授 ふりがな 氏名：星野 仁彦 ほしの よしひこ	開講期	前期
		授業回数	時間割外
		期末試験の実施	無
授業に関する主な実務経験と期間		精神科専門医として 46 年間の経験	
社会貢献としての委員会・職 等		福島市を含む県北地区の学校精神科医	
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等		精神保健指定医、精神科専門医、日本精神神経学会会員	
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別
卒業		専門科目	必修
公認心理師		専門科目	選択
臨床心理士		専門科目	選択
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60 時間
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。	

<b>【授業の概要】</b> 自らの関心を深め、研究テーマを設定します。テーマにまつわる書籍、論文等を読み込み、関連する概念や先行研究の内容、研究法について学修します。それらを踏まえて、研究計画を作成していきます。 ※研究倫理に関する説明が授業の初期に含まれています。	<b>【授業の概要及び到達目標との対応項目】</b>		
	<input type="radio"/>	A	知識
		B	技術・技能
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力
	<input type="radio"/>	D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J	多様性への理解力、応用力
		K	課題対処力
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
<b>【授業の到達目標】</b>		<b>【授業の概要・到達目標との対応項目】</b> (受講して得られる力)	
① 自らの関心を絞り込む。		目標	C
② 心理学・精神医学の論文の読み方、まとめ方を学ぶ。		目標	A
③ 研究計画をたてる。		目標	D

## 【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【復習・復習】
1~2	自らの関心を言語化し、絞り込む	ディスカッション	自身の興味・関心に関連する情報を収集する。
3~10	先行研究論文の読み込みと発表	プレゼンテーション ディスカッション	関連論文を読み、レジюмеを作成する。
11~15	研究計画作成	プレゼンテーション ディスカッション	研究計画作成とそのブラッシュアップ。

**【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】**

目標A, C, Dについては、できあがった研究計画書を下記の点から評価します。

- ・ 先行研究を精読しまとめることができているか（60点満点）
- ・ それらを踏まえた研究テーマを設定することができたか、そのテーマを検討することができる研究計画が作成できているか（40点満点）

**【教科書】** 使用しません。

# 心理学研究科臨床心理学専攻 授 業 計 画

2019 年度

授業科目名	臨床心理課題研究 I	授業形態・単位数	演習・2 単位
		開講年次	1 年次
担当教員	職名：教授 ふりがな 氏名：杉山 雅彦 すぎやま まさひこ	開講期	前期
		授業回数	時間割外
		期末試験の実施	無
授業に関する主な実務経験と期間	あかつき心理相談研究所 顧問・指導相談員（平成 23 年 4 月～平成 27 年 3 月）		
社会貢献としての委員会・職 等	福島県いじめ問題対策委員会・委員長 認知行動療法学会、常任編集委員、編集委員会副委員長		
最終卒業（終了）学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	筑波大学大学院博士課程心身障害学専攻 修了（教育学博士） 臨床心理士（臨床心理士資格認定協会）専門行動療法士（認知・行動療法学会） 認知・行動療法学会、行動分析学会、カウンセリング学会		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門科目	必修	
公認心理師	専門科目	選択	
臨床心理士	専門科目	選択	
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60 時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 メールアドレス：sugiyama.masahiko@fukushima-college.ac.jp.		

<b>【授業の概要】</b> 学生それぞれの関心に沿っての研究課題あるいは論文に関して基礎的な知識及び研究の現状に関して検討していきます。関心領域に関する学会誌等の学術論文を精読していく過程で研究法に関して明確にし、研究のプロセスに関する理解を深めていきます。 ※研究倫理に関する説明が授業の初期に含まれています。	<b>【授業の概要及び到達目標との対応項目】</b>		
	○	A	知識
		B	技術・技能
	○	C	論理的思考力
		D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○	J	多様性への理解力、応用力
		K	課題対処力
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力

<b>【授業の到達目標】</b>	<b>【授業の概要・到達目標との対応項目】</b> (受講して得られる力)	
① 目的を明確にし、研究テーマを決定する	目標	A、C、
② 研究倫理について理解する。	目標	A、
③ 研究計画の作成		A、C、J
④ 先行研究のレポート	目標	A、C、J

## 【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【復習・復習】
1～3	関心のブラッシュアップ	ディスカッション	【予習】自他の心理や社会からの情報をキャッチし言

			葉にする。 【復習】授業でのディスカッションの論点をまとめる。
4～9	先行研究の探索とレポート	先行研究に関するプレゼンテーションとディスカッション	【予習】先行研究を収集し、レジュメを作成する。 【復習】授業で挙げた課題について調査し、見通しを持つ。
10～15	研究計画書の作成および、先行研究のディスカッション	ディスカッション	【予習】研究の方法論について調べてくる。 【復習】授業でのディスカッションの論点をまとめる。
<p>【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】</p> <p>目標A, C, Jについて、下記の点から評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先行研究を精読しまとめることができているか（60点満点）</li> <li>・それらを踏まえた研究テーマを設定することができたか、そのテーマを検討することができる研究計画が作成できているか（40点満点）</li> </ul>			
【教科書】使用しません。			

# 心理学研究科臨床心理学専攻 授 業 計 画

2019 年度

授業科目名	臨床心理課題研究 I	授業形態・単位数	演習・2 単位
		開講年次	1 年次
担当教員	職名：教授 ふりがな 氏名：岸 <small>きし</small> 良範 <small>よしのり</small>	開講期	前期
		授業回数	15 回
		期末試験の実施	無
授業に関する主な実務経験と期間	愛知教育大学、茨城大学、各臨床心理相談室相談員他 (平成 12 年 4 月～平成 29 年 3 月)		
社会貢献としての委員会・職 等	日本臨床心理士資格認定協会理事、 専門職大学院認証評価判定委員会副委員長他		
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	早稲田大学大学院文学研究科社会学専攻修士課程修了、文学修士 臨床心理士、心理臨床学会、箱庭療法学会、精神分析学会		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門科目	必修	
臨床心理士	専門科目	選択	
公認心理師	専門科目	選択	
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60 時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 メールアドレス：kishi.yoshinori@fukushima-college.ac.jp		

<b>【授業の概要】</b> 自らの関心を深め、研究テーマを設定します。テーマにまつわる書籍、論文等を読み込み、関連する概念や先行研究の内容、研究法について学修します。それらを踏まえて、研究計画を作成していきます。 ※研究倫理に関する説明が授業の初期に含まれていません。	<b>【授業の概要及び到達目標との対応項目】</b>		
	<input type="radio"/>	A	知識
		B	技術・技能
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力
	<input type="radio"/>	D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力
		K	課題対処力
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
<b>【授業の到達目標】</b>		<b>【授業の概要・到達目標との対応項目】</b> (受講して得られる力)	
関心を絞り込む。		目標	A、C、J
論文の読み方、まとめ方を学ぶ。		目標	A、C
研究計画を立てる。		目標	A、C、D、J

## 【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	自らの関心を言語化し、絞り込む	ディスカッション	自分の興味・関心に関連する情報を収集する。
2	自らの関心を言語化し、絞り込む	ディスカッション	自分の興味・関心に関連する情報を収集する。

3	先行研究論文の読み込みと発表	プレゼンテーション ディスカッション	関連論文を読み、レジユメを作成する。
4	先行研究論文の読み込みと発表	プレゼンテーション ディスカッション	関連論文を読み、レジユメを作成する。
5	先行研究論文の読み込みと発表	プレゼンテーション ディスカッション	関連論文を読み、レジユメを作成する。
6	先行研究論文の読み込みと発表	プレゼンテーション ディスカッション	関連論文を読み、レジユメを作成する。
7	先行研究論文の読み込みと発表	プレゼンテーション ディスカッション	関連論文を読み、レジユメを作成する。
8	先行研究論文の読み込みと発表	プレゼンテーション ディスカッション	関連論文を読み、レジユメを作成する。
9	先行研究論文の読み込みと発表	プレゼンテーション ディスカッション	関連論文を読み、レジユメを作成する。
10	先行研究論文の読み込みと発表	プレゼンテーション ディスカッション	関連論文を読み、レジユメを作成する。
11	研究計画発表	プレゼンテーション ディスカッション	研究計画作成とそのブラッシュアップ。研究計画作成とそのブラッシュアップ。
12	研究計画発表	プレゼンテーション ディスカッション	研究計画作成とそのブラッシュアップ。
13	研究計画発表	プレゼンテーション ディスカッション	研究計画作成とそのブラッシュアップ。
14	研究計画発表	プレゼンテーション ディスカッション	研究計画作成とそのブラッシュアップ。
15	研究計画発表	プレゼンテーション ディスカッション	研究計画作成とそのブラッシュアップ。
<p><b>【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】</b>          目標 A・C：先行研究を精読しまとめることができているか(60点満点)          目標 D・J：それらを踏まえた研究テーマを設定することができたか、そのテーマを検討することができる研究計画が作成できているか(40点満点)、という観点から評価します。</p>			
<p><b>【教科書】</b> 使用しません。</p>			



授業科目名	臨床心理課題研究 I	授業形態・単位数	演習・2 単位
		開講年次	1 年次
担当教員	職名：教授 ふりがな わたなべ つとむ 氏名：渡邊 勉	開講期	前期
		授業回数	時間割外
		期末試験の実施	無
授業に関する主な実務経験と期間		聖マリアンナ医科大学病院神経精神科心理技術員・臨床心理士 (昭和 57 年 1 月～平成 14 年 3 月) 目白大学カウンセリングセンター相談員 (平成 14 年 4 月～平成 30 年 3 月)	
社会貢献としての委員会・職 等		福島市自殺対策ネットワーク会議議長、日本心理臨床学会代議員	
資格・免許及び所属学会 等		上智大学大学院文学研究科教育学専攻博士課程修了、文学修士、 博士(医学)、臨床心理士、日本精神分析学会認定心理療法士、 公認心理師、心理臨床学会、森田療法学会	
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門科目	必修	
公認心理師	専門科目	選択	
臨床心理士	専門科目	選択	
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60 時間
オフィスアワー・メールアドレス等	水曜日午後：福島駅前キャンパス研究室(401) tsutomu.watanabe@fukushima-college.ac.jp		

<b>【授業の概要】</b> 臨床心理学の領域における自らの関心を深めるために、 先行研究を幅広く探索して、研究テーマを設定します。 テーマにまつわる書籍、論文等を読み込み、関連する概 念や先行研究の内容、研究法について学修し、それらを 踏まえて、研究計画を作成していきます。 ※研究倫理に関する説明が授業の初期に含まれていま す。	<b>【授業の概要及び到達目標との対応項目】</b>		
	○	A	知識
		B	技術・技能
	○	C	論理的思考力
	○	D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J	多様性への理解力、応用力
		K	課題対処力
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
<b>【授業の到達目標】</b>	<b>【授業の概要・到達目標との対応項目】</b> (受講して得られる力)		
臨床心理学の幅広い領域に関わる研究を概観できる	目標	A	
先行研究を踏まえ独自のテーマを絞り込むことができる	目標	C	
修士論文として完成させることができる	目標	D	

<b>【授業計画】</b>			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ ラーニングの方法)及び、 授業で使用する教材等	授業時間以外 の必要な学修 【復習・復習】
1	臨床心理学における研究倫理	資料配布と討論	復習：研究倫理 についての資料 を精読する。

2	自らの関心を言語化し、絞り込む	ディスカッション	自身の興味・関心に関連する情報を収集する。
3	先行研究論文の読み込みと発表	プレゼンテーション ディスカッション	関連論文を読み、レジメを作成する。
4	先行研究論文の読み込みと発表	プレゼンテーション ディスカッション	関連論文を読み、レジメを作成する。
5	先行研究論文の読み込みと発表	プレゼンテーション ディスカッション	関連論文を読み、レジメを作成する。
6	先行研究論文の読み込みと発表	プレゼンテーション ディスカッション	関連論文を読み、レジメを作成する。
7	先行研究論文の読み込みと発表	プレゼンテーション ディスカッション	関連論文を読み、レジメを作成する。
8	先行研究論文の読み込みと発表	プレゼンテーション ディスカッション	関連論文を読み、レジメを作成する。
9	先行研究論文の読み込みと発表	プレゼンテーション ディスカッション	関連論文を読み、レジメを作成する。
10	先行研究論文の読み込みと発表	プレゼンテーション ディスカッション	関連論文を読み、レジメを作成する。
11	研究計画作成	プレゼンテーション ディスカッション	研究計画作成とそのブラッシュアップ。
12	研究計画作成	プレゼンテーション ディスカッション	研究計画作成とそのブラッシュアップ。
13	研究計画作成	プレゼンテーション ディスカッション	研究計画作成とそのブラッシュアップ。
14	研究計画作成	プレゼンテーション ディスカッション	研究計画作成とそのブラッシュアップ。

15	研究計画作成	プレゼンテーション ディスカッション	研究計画作成と そのブラッシュ アップ。
<p><b>【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先行研究を精読しまとめることができているか（60%）</li> <li>・それらを踏まえた研究テーマを設定することができたか、そのテーマを検討することができる研究計画が作成できているか（40%）、という観点から評価します。</li> </ul>			
<p><b>【教科書】</b> 使用しません。</p>			

授業科目名	臨床心理課題研究 I	授業形態・単位数	演習・2 単位
		開講年次	1 年次
担当教員	職名：准教授 ふりがな 氏名：佐藤佑貴 さとうゆうき	開講期	前期
		授業回数	時間割外
		期末試験の実施	無
授業に関する主な実務経験と期間	福島学院大学大学院附属心理臨床相談センター相談員 (平成 19 年 4 月～現在)		
社会貢献としての委員会・職 等	福島市教育委員会 特別支援教育指導員		
資格・免許及び所属学会 等	群馬大学大学院教育学研究科修了、修士（教育学） 公認心理師、臨床心理士、小学校教員専修免許状		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門科目	必修	
公認心理師	専門科目	選択	
臨床心理士	専門科目	選択	
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60 時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 メールアドレス：sato.yuhki@fukushima-college.ac.jp		

<b>【授業の概要】</b> 各自の関心から、研究テーマおよびリサーチクエスチョン(RQ)を決定するプロセスを経て研究計画を作成する。新たな意義ある RQ を創出するために、先行研究のクリティーク（批判的検討）を行い、RQ の解明のために適切な手段を選択できるよう、研究の方法論についても学びを深めます。 ※研究倫理に関する説明が授業の初期に含まれています。	<b>【授業の概要及び到達目標との対応項目】</b>			
	<input type="radio"/>	A	知識	
		B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	

<b>【授業の到達目標】</b>	<b>【授業の概要・到達目標との対応項目】</b> (受講して得られる力)	
関心を言葉および文章で表現することで、より明確にできる。	目標	C,I
先行研究を批判的に読むことができる。	目標	C
RQ の解明のために必要な方法を選択することができる。	目標	A
	目標	

<b>【授業計画】</b>			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【復習・復習】
1～3	関心のブラッシュアップ	ディスカッション	【予習】 自他の心理や社会からの情報をキャッチし言葉にする。 【復習】 授業でのディスカッシ

			ヨンの論点をまとめる。
4～9	先行研究のクリティーク	先行研究に関するプレゼンテーションとディスカッション	【予習】先行研究を収集し、レジюмеを作成する。 【復習】授業で挙げた課題について調査し、見通しを持つ。
10～15	研究計画書の作成	ディスカッション 各回レポート作成	【予習】研究の方法論について調べてくる。 【復習】授業でのディスカッションの論点をまとめる。
<p><b>【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】</b></p> <p>目標 A：先行研究の要点および課題等をまとめることができているか、レジюмеとプレゼンテーションにおいて評価します（40点満点）。</p> <p>目標 C および I：研究計画書の形式に則り、かつ論理的に記述ができているか、各回のレポートにより評価します（60点満点）。</p>			
<p><b>【教科書】</b> 使用しません。</p>			

心理学研究科臨床心理学専攻 授 業 計 画

2019 年度

授業科目名	臨床心理課題研究Ⅱ	授業形態・単位数	演習・2単位
		開講年次	1年次
担当教員	職名：教授 ふりがな 氏名：星野 仁彦 ほしの よしひこ	開講期	後期
		授業回数	時間割外
		期末試験の実施	無
授業に関する主な実務経験と期間		精神科専門医として 46 年間の経験	
社会貢献としての委員会・職 等		福島市を含む県北地区の学校精神科医	
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等		精神保健指定医、精神科専門医、日本精神神経学会会員	
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別
卒業		専門科目	必修
公認心理師		専門科目	選択
臨床心理士		専門科目	選択
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60 時間
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。	

【授業の概要】 研究計画をブラッシュアップし、予備研究を始めます。 また、予備研究を学会等にて発表できるよう準備を進めます。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】		
	○	A	知識
		B	技術・技能
	○	C	論理的思考力
		D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○	J	多様性への理解力、応用力
		K	課題対処力
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
調査用紙の作成または臨床実践の開始		目標	J
調査の実施または実践報告のレポートの作成		目標	C
先行研究のレビュー作成		目標	A

【授業計画】			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【復習・復習】
1~3	研究計画と先行研究の関連のディスカッション	ディスカッション	【予習】先行研究の吟味 【復習】授業でのディスカッションの論点をまとめ研究計画をブラッシュアップする。

4～8	予備研究関連データのディスカッション	ディスカッション	【予習】研究に関連する方法手続きの吟味 【復習】授業で挙げた課題について調査し、見通しを持つ。
9～15	予備研究の施行とデータに関するディスカッション	ディスカッション	【予習】データの記述と分析 【復習】授業でのディスカッションの論点をまとめる。
<p>【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】</p> <p>目標A, C, Jについて、下記の点から評価します。</p> <p>目標 A：積極的な意見の提示（30 点満点）</p> <p>目標 C：先行研究のレビューの充実（30 点満点）</p> <p>目標 J：研究計画の進捗状況のレポートの提出（40 点満点）</p>			
【教科書】使用しません。			

# 心理学研究科臨床心理学専攻 授 業 計 画

2019 年度

授業科目名	<b>臨床心理課題研究Ⅱ</b>		授業形態・単位数	演習・2 単位
			開講年次	1 年次
担当教員	職名：教授 <small>ふりがな</small> 氏名：杉山 <small>すぎやま</small> 雅彦 <small>まさひこ</small>		開講期	後期
			授業回数	時間割外
			期末試験の実施	無
授業に関する主な実務経験と期間	あかつき心理相談研究所 顧問・指導相談員（平成 23 年 4 月～平成 27 年 3 月）			
社会貢献としての委員会・職 等	福島県いじめ問題対策委員会・委員長 認知行動療法学会、常任編集委員、編集委員会副委員長			
最終卒業（終了）学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	筑波大学大学院博士課程心身障害学専攻科 修了（教育学博士） 臨床心理士（臨床心理士資格認定協会）専門行動療法士（認知・行動療法学会） 認知・行動療法学会、行動分析学会、カウンセリング学会			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門科目	必修		
公認心理師	専門科目	選択		
臨床心理士	専門科目	選択		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60 時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 メールアドレス：sugiyama.masahiko@fukushima-college.ac.jp.			

<p><b>【授業の概要】</b></p> <p>臨床心理課題研究Ⅰで作成された研究計画を検討修正しながら、予備研究に着手していきます。同時に先行研究のレビューを進め、計画された研究に関して理解を深めていく。予備的な研究に関しては発表する形がとれるよう準備を進めます。</p>	<p style="text-align: center;"><b>【授業の概要及び到達目標との対応項目】</b></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="text-align: center;">○</td><td style="text-align: center;">A</td><td>知識</td></tr> <tr><td></td><td style="text-align: center;">B</td><td>技術・技能</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">○</td><td style="text-align: center;">C</td><td>論理的思考力</td></tr> <tr><td></td><td style="text-align: center;">D</td><td>文章表現力</td></tr> <tr><td></td><td style="text-align: center;">E</td><td>表情及び身体表現力</td></tr> <tr><td></td><td style="text-align: center;">F</td><td>感性及び感動表現力</td></tr> <tr><td></td><td style="text-align: center;">G</td><td>協働能力</td></tr> <tr><td></td><td style="text-align: center;">H</td><td>まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力</td></tr> <tr><td></td><td style="text-align: center;">I</td><td>積極的発言力及びプレゼンテーション力</td></tr> <tr><td></td><td style="text-align: center;">J</td><td>多様性への理解力、応用力</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">○</td><td style="text-align: center;">K</td><td>課題対処力</td></tr> <tr><td></td><td style="text-align: center;">L</td><td>人間関係、対人関係構築力及び対話力</td></tr> </table>	○	A	知識		B	技術・技能	○	C	論理的思考力		D	文章表現力		E	表情及び身体表現力		F	感性及び感動表現力		G	協働能力		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力		J	多様性への理解力、応用力	○	K	課題対処力		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
○	A	知識																																			
	B	技術・技能																																			
○	C	論理的思考力																																			
	D	文章表現力																																			
	E	表情及び身体表現力																																			
	F	感性及び感動表現力																																			
	G	協働能力																																			
	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力																																			
	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力																																			
	J	多様性への理解力、応用力																																			
○	K	課題対処力																																			
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力																																			

<b>【授業の到達目標】</b>	<b>【授業の概要・到達目標との対応項目】</b> (受講して得られる力)	
調査用紙の作成または臨床実践の開始	目標	A,K
調査の実施または実践報告のレポートの作成	目標	K
先行研究のレビュー作成	目標	C

<b>【授業計画】</b>			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修 <b>【復習・復習】</b>
1～3	研究計画と先行研究の関連のディスカッション	ディスカッション	<b>【予習】</b> 先行研究の吟味 <b>【復習】</b> 授業でのディスカッシ



			ヨンの論点をまとめ研究計画をブラッシュアップする。
4～8	予備研究関連データのディスカッション	ディスカッション	【予習】研究に関連する方法手続きの吟味 【復習】授業で挙げた課題について調査し、見通しを持つ。
9～15	予備研究の施行とデータに関するディスカッション	ディスカッション	【予習】データの記述と分析 【復習】授業でのディスカッションの論点をまとめる。
<p>【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】</p> <p>目標 A：計画の進捗状況が明確になるレポートが提出されるかどうか（40 点満点）</p> <p>目標 C：テーマに関するデータの分析（30 点満点）</p> <p>目標 K：先行研究のレビューが進んでいくかどうか（30 点満点）</p>			
【教科書】使用しません。			

# 心理学研究科臨床心理学専攻 授業計画

2019年度

授業科目名	臨床心理課題研究Ⅱ	授業形態・単位数	演習・2単位
		開講年次	1年次
担当教員	職名：教授 ふりがな わたなべつとむ 氏名：渡邊 勉	開講期	後期
		授業回数	時間割外
		期末試験の実施	無
授業に関する主な実務経験と期間		聖マリアンナ医科大学病院神経精神科心理技術員・臨床心理士（昭和57年1月～平成14年3月） 目白大学カウンセリングセンター相談員（平成14年4月～平成30年3月）	
社会貢献としての委員会・職等		福島市自殺対策ネットワーク会議議長、日本心理臨床学会代議員	
資格・免許及び所属学会等		上智大学大学院文学研究科教育学専攻博士課程修了、文学修士、博士（医学）、臨床心理士、日本精神分析学会認定心理療法士、公認心理師、心理臨床学会、森田療法学会	
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別
卒業		専門科目	必修
公認心理師		専門科目	選択
臨床心理士		専門科目	選択
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等		水曜日午後：福島駅前キャンパス研究室（401） tsutomu.watanabe@fukushima-college.ac.jp	

<b>【授業の概要】</b> 臨床心理課題研究Ⅰに引き続き、先行研究を精読しながら、並行して研究計画をより精緻なものに仕上げていく。必要であれば、予備調査等を行います。	<b>【授業の概要及び到達目標との対応項目】</b>		
	○	A	知識
		B	技術・技能
	○	C	論理的思考力
		D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J	多様性への理解力、応用力
	○	K	課題対処力
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力

<b>【授業の到達目標】</b>		<b>【授業の概要・到達目標との対応項目】</b> (受講して得られる力)	
研究計画を仕上げることができる		目標	A
予備調査を実施できる		目標	C
データ分析を実施できる		目標	K

## 【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【復習・復習】
1	研究計画の作成	プレゼンテーション ディスカッション	研究計画作成と ブラッシュアップ

2	研究計画の作成	プレゼンテーション ディスカッション	研究計画作成と ブラッシュアップ
3	研究計画の作成	プレゼンテーション ディスカッション	研究計画作成と ブラッシュアップ
4	研究計画の作成	プレゼンテーション ディスカッション	研究計画作成と ブラッシュアップ
5	研究計画の作成	プレゼンテーション ディスカッション	研究計画作成と ブラッシュアップ
6	研究計画の作成	プレゼンテーション ディスカッション	研究計画作成と ブラッシュアップ
7	研究計画の作成	プレゼンテーション ディスカッション	研究計画作成と ブラッシュアップ
8	研究計画の作成	プレゼンテーション ディスカッション	研究計画作成と ブラッシュアップ
9	研究計画の作成	プレゼンテーション ディスカッション	研究計画作成と ブラッシュアップ
10	予備研究の実施	ディスカッション	予備研究資料準備・統計計的分析方法の復習
11	予備研究の実施	ディスカッション	予備研究資料準備・統計計的分析方法の復習
12	予備研究の実施	ディスカッション	予備研究資料準備・統計計的分析方法の復習
13	予備研究のデータ分析	ディスカッション	予備研究のデータ分析
14	予備研究のデータ分析	ディスカッション	予備研究のデータ分析
15	予備研究のデータ分析	ディスカッション	予備研究のデータ分析

**【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】**

目標 A：計画の進捗状況が明確になるレポートが提出されるかどうか（40 点満点）

目標 C：テーマに関するデータの分析（30 点満点）

目標K：先行研究のレビューが進んでいくかどうか（30点満点）

**【教科書】** 使用しません。

授業科目名	臨床心理課題研究Ⅱ	授業形態・単位数	演習・2単位
		開講年次	1年次
担当教員	職名：教授 ふりがな 氏名：岸 良範 きし よしのり	開講期	後期
		授業回数	15回
		期末試験の実施	無
授業に関する主な実務経験と期間	愛知教育大学、茨城大学、各臨床心理相談室相談員他 (平成12年4月～平成29年3月)		
社会貢献としての委員会・職等	日本臨床心理士資格認定協会理事、 専門職大学院認証評価判定委員会副委員長他		
最終卒業(修了)学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等	早稲田大学大学院文学研究科社会学専攻修士課程修了、文学修士 臨床心理士、心理臨床学会、箱庭療法学会、精神分析学会		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門科目	必修	
臨床心理士	専門科目	選択	
公認心理師	専門科目	選択	
開講キャンパス	福島駅キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 メールアドレス：kishi.yoshinori@fukushima-college.ac.jp		

<b>【授業の概要】</b> 臨床心理課題研究Ⅰに引き続き、先行研究を精読しながら、平行して研究計画をより精緻なものに仕上げていく。必要であれば、予備調査等を行います。	<b>【授業の概要及び到達目標との対応項目】</b>		
	<input type="radio"/>	A	知識
		B	技術・技能
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力
	<input type="radio"/>	D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力
		K	課題対処力
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力

<b>【授業の到達目標】</b>	<b>【授業の概要・到達目標との対応項目】</b> (受講して得られる力)	
①研究計画の仕上げ	目標	A、C、D、J
②予備調査の実施	目標	A、C
③データ分析の実施	目標	A、C

**【授業計画】**

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	研究計画の作成	プレゼンテーション ディスカッション	研究計画作成とブラッシュアップ
2	研究計画の作成	ディスカッション	予備研究資料準備 統計的分析方法の復習

3	研究計画の作成	ディスカッション	予備研究資料準備 統計的分析方法の復習
4	研究計画の作成	ディスカッション	予備研究資料準備 統計的分析方法の復習
5	研究計画の作成	ディスカッション	予備研究資料準備 統計的分析方法の復習
6	研究計画の作成	ディスカッション	予備研究資料準備 統計的分析方法の復習
7	研究計画の作成	ディスカッション	予備研究資料準備 統計的分析方法の復習
8	研究計画の作成	ディスカッション	予備研究資料準備 統計的分析方法の復習
9	研究計画の作成	ディスカッション	予備研究資料準備 統計的分析方法の復習
10	予備研究の実施	ディスカッション	予備研究資料準備 統計的分析方法の復習
11	予備研究の実施	ディスカッション	予備研究資料準備 統計的分析方法の復習
12	予備研究の実施	ディスカッション	予備研究資料準備 統計的分析方法の復習
13	予備研究のデータ分析	ディスカッション	予備研究のデータ分析
14	予備研究のデータ分析	ディスカッション	予備研究のデータ分析
15	予備研究のデータ分析	ディスカッション	予備研究のデータ分析
<p><b>【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】</b>  目標 A・C：先行研究を精読しまとめることができているか(20 点満点)  目標 D・J：それらを踏まえた研究計画が実行できているか(80 点満点)という観点から評価します。</p>			
<p><b>【教科書】</b> 使用しません。</p>			

# 心理学研究科臨床心理学専攻 授 業 計 画

2019 年度

授業科目名	<b>臨床心理課題研究Ⅱ</b>		授業形態・単位数	演習・2 単位
			開講年次	1 年次
担当教員	職名：准教授 <small>ふりがな</small> 氏名：佐藤佑貴 <small>さとうゆうき</small>		開講期	後期
			授業回数	時間割外
			期末試験の実施	無
授業に関する主な実務経験と期間	福島学院大学大学院附属心理臨床相談センター相談員 (平成 19 年 4 月～現在)			
社会貢献としての委員会・職 等	福島市教育委員会 特別支援教育指導員			
資格・免許及び所属学会 等	群馬大学大学院教育学研究科修了、修士（教育学） 公認心理師、臨床心理士、小学校教員専修免許状			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門科目	必修		
公認心理師	専門科目	選択		
臨床心理士	専門科目	選択		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60 時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 メールアドレス：sato.yuhki@fukushima-college.ac.jp			

<b>【授業の概要】</b> 臨床心理課題研究Ⅰにて作成した先行研究をブラッシュアップさせます。また、必要に応じて予備的研究を実施します。	<b>【授業の概要及び到達目標との対応項目】</b>			
	○	A	知識	
		B	技術・技能	
	○	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	○	J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
<b>【授業の到達目標】</b>	<b>【授業の概要・到達目標との対応項目】</b> (受講して得られる力)			
文献の読み込みによって研究計画がブラッシュアップされる	目標	J		
予備的研究の形式を整え、実施することができる	目標	A		
予備的研究のデータ分析ができる	目標	C		
	目標			

<b>【授業計画】</b>			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【復習・復習】
1～9	研究計画の作成	プレゼンテーション ディスカッション	研究計画作成とブラッシュアップ
10～12	予備研究の実施	ディスカッション	予備的研究資料作成および整理

13～ 15	予備研究のデータ分析	ディスカッション	予備的研究のデータ分析
<p>【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】</p> <p>目標 C：先行研究を精読しまとめることができているか（20 点満点）</p> <p>目標 A および J：それらを踏まえた研究計画を実行しているか（80 点満点）という観点から評価します。</p>			
<p>【教科書】 使用しません。</p>			



# 心理学研究科臨床心理学専攻 授 業 計 画

2019 年度

授業科目名	<b>臨床心理課題研究Ⅲ</b>		授業形態・単位数	演習・2 単位
			開講年次	2 年次
担当教員	職名：教授 <small>ふりがな</small> 氏名：杉山 <small>すぎやま</small> 雅彦 <small>まさひこ</small>		開講期	前期
			授業回数	時間割外
			期末試験の実施	無
授業に関する主な実務経験と期間	あかつき心理相談研究所 顧問・指導相談員（平成 23 年 4 月～平成 27 年 3 月）			
社会貢献としての委員会・職 等	福島県いじめ問題対策委員会・委員長 認知行動療法学会、常任編集委員、編集委員会副委員長			
最終卒業（終了）学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	筑波大学大学院博士課程心身障害学専攻科 修了（教育学博士） 臨床心理士（臨床心理士資格認定協会）専門行動療法士（認知・行動療法学会） 認知・行動療法学会、行動分析学会、カウンセリング学会			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門科目	必修		
公認心理師	専門科目	選択		
臨床心理士	専門科目	選択		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60 時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 メールアドレス：sugiyama.masahiko@fukushima-college.ac.jp.			

<p><b>【授業の概要】</b></p> <p>臨床心理課題研究Ⅱで進められた予備的研究を継続し先行研究の検討、及び資料収集を行います。その上で、作成された研究計画を検討修正しながら、論文の作成、執筆に入っていきます。</p>	<p style="text-align: center;"><b>【授業の概要及び到達目標との対応項目】</b></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="text-align: center;">○</td><td style="text-align: center;">A</td><td>知識</td></tr> <tr><td></td><td style="text-align: center;">B</td><td>技術・技能</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">○</td><td style="text-align: center;">C</td><td>論理的思考力</td></tr> <tr><td></td><td style="text-align: center;">D</td><td>文章表現力</td></tr> <tr><td></td><td style="text-align: center;">E</td><td>表情及び身体表現力</td></tr> <tr><td></td><td style="text-align: center;">F</td><td>感性及び感動表現力</td></tr> <tr><td></td><td style="text-align: center;">G</td><td>協働能力</td></tr> <tr><td></td><td style="text-align: center;">H</td><td>まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力</td></tr> <tr><td></td><td style="text-align: center;">I</td><td>積極的発言力及びプレゼンテーション力</td></tr> <tr><td></td><td style="text-align: center;">J</td><td>多様性への理解力、応用力</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">○</td><td style="text-align: center;">K</td><td>課題対処力</td></tr> <tr><td></td><td style="text-align: center;">L</td><td>人間関係、対人関係構築力及び対話力</td></tr> </table>	○	A	知識		B	技術・技能	○	C	論理的思考力		D	文章表現力		E	表情及び身体表現力		F	感性及び感動表現力		G	協働能力		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力		J	多様性への理解力、応用力	○	K	課題対処力		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
○	A	知識																																			
	B	技術・技能																																			
○	C	論理的思考力																																			
	D	文章表現力																																			
	E	表情及び身体表現力																																			
	F	感性及び感動表現力																																			
	G	協働能力																																			
	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力																																			
	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力																																			
	J	多様性への理解力、応用力																																			
○	K	課題対処力																																			
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力																																			

<b>【授業の到達目標】</b>	<b>【授業の概要・到達目標との対応項目】</b> (受講して得られる力)	
研究も方法に習熟する	目標	A
論文に関する問題と目的を明確にする	目標	K
論文の構成を明確にする	目標	C

<b>【授業計画】</b>			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修 <b>【復習・復習】</b>
1～3	予備研究のまとめとディスカッション	ディスカッション	<b>【予習】</b> 予備研究の吟味 <b>【復習】</b> 授業でのディスカッション

			ヨンの論点をまとめ研究計画をブラッシュアップする。
4～8	本研究に関するディスカッションと構成の検討	ディスカッション	<p>【予習】研究にのプロセスに関する検討と得られた結果に関する先行研究との比較</p> <p>【復習】授業で挙げた課題について調査し、見通しを持つ。</p>
9～15	本研究の施行とデータに関するディスカッション	ディスカッション	<p>【予習】本研究のデータの記述と分析</p> <p>【復習】授業でのディスカッションの論点をまとめる。</p>
<p>【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】</p> <p>目標 A、C および K について、論文の構成がどの程度に達しているのか、作業としてどのように進み、理解が進んでいるかを基準に評価します。</p>			
<p>【教科書】 使用しません。</p>			

# 心理学研究科臨床心理学専攻 授 業 計 画

2019 年度

授業科目名	臨床心理課題研究Ⅲ	授業形態・単位数	演習・2単位
		開講年次	2年次
担当教員	職名：教授 ふりがな 氏名：岸 <small>きし</small> 良範 <small>よしのり</small>	開講期	前期
		授業回数	15回
		期末試験の実施	無
授業に関する主な実務経験と期間	愛知教育大学、茨城大学、各臨床心理相談室相談員他 (平成12年4月～平成29年3月)		
社会貢献としての委員会・職等	日本臨床心理士資格認定協会理事、 専門職大学院認証評価判定委員会副委員長他		
最終卒業(修了)学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等	早稲田大学大学院文学研究科社会学専攻修士課程修了、文学修士 臨床心理士、心理臨床学会、箱庭療法学会、精神分析学会		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門科目	必修	
臨床心理士	専門科目	選択	
公認心理師	専門科目	選択	
開講キャンパス	福島駅キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 メールアドレス：kishi.yoshinori@fukushima-college.ac.jp		

<b>【授業の概要】</b> これまでに設定した研究の問題と目的、方法に基づき、本研究を実施します。また、本研究のデータ分析を行い、論文の執筆を始めます。	<b>【授業の概要及び到達目標との対応項目】</b>		
		A	知識
		B	技術・技能
	○	C	論理的思考力
		D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○	J	多様性への理解力、応用力
	○	K	課題対処力
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力

<b>【授業の到達目標】</b>	<b>【授業の概要・到達目標との対応項目】</b> (受講して得られる力)	
予備的研究の結果を整理する。	目標	J
本研究を実施する。	目標	K
本研究のデータ分析を行う。	目標	C

## 【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	予備的研究結果の整理	プレゼンテーション ディスカッション	予備的研究の結果を踏まえた本研究計画の仕上げ
2	予備的研究結果の整理	プレゼンテーション ディスカッション	予備的研究の結果を踏まえた本研究計画の仕上げ

			げ
3	予備的研究結果の整理	プレゼンテーション ディスカッション	予備的研究の結果を踏まえた本研究計画の仕上げ
4	予備的研究結果の整理	プレゼンテーション ディスカッション	予備的研究の結果を踏まえた本研究計画の仕上げ
5	本研究の実施	ディスカッション	本研究実施のための資料準備 分析方法の復習
6	本研究の実施	ディスカッション	本研究実施のための資料準備 分析方法の復習
7	本研究の実施	ディスカッション	本研究実施のための資料準備 分析方法の復習
8	本研究のデータ分析と考察	プレゼンテーション ディスカッション	データ分析の実施と発表準備
9	本研究のデータ分析と考察	プレゼンテーション ディスカッション	データ分析の実施と発表準備
10	本研究のデータ分析と考察	プレゼンテーション ディスカッション	データ分析の実施と発表準備
11	本研究のデータ分析と考察	プレゼンテーション ディスカッション	データ分析の実施と発表準備
12	本研究のデータ分析と考察	プレゼンテーション ディスカッション	データ分析の実施と発表準備
13	本研究のデータ分析と考察	プレゼンテーション ディスカッション	データ分析の実施と発表準備
14	本研究のデータ分析と考察	プレゼンテーション ディスカッション	データ分析の実施と発表準備
15	本研究のデータ分析と考察	プレゼンテーション ディスカッション	データ分析の実施と発表準備
<p>【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】</p> <p>目標 C：本研究の実施状況(65 点満点)</p> <p>目標 J・K：それに対する理解と考察、論文の進行度合い(35 点満点)を基準に評価します。</p>			
<p>【教科書】使用しません。</p>			

# 心理学研究科臨床心理学専攻 授 業 計 画

2019 年度

授業科目名	<b>臨床心理課題研究Ⅲ</b>		授業形態・単位数	演習・2 単位
			開講年次	2 年次
担当教員	職名：准教授 <small>ふりがな</small> 氏名：佐藤佑貴 <small>さとうゆうき</small>		開講期	前期
			授業回数	時間割外
			期末試験の実施	無
授業に関する主な実務経験と期間	福島学院大学大学院附属心理臨床相談センター相談員 (平成 19 年 4 月～現在)			
社会貢献としての委員会・職 等	福島市教育委員会 特別支援教育指導員			
資格・免許及び所属学会 等	群馬大学大学院教育学研究科修了、修士（教育学） 公認心理師、臨床心理士、小学校教員専修免許状			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門科目	必修		
公認心理師	専門科目	選択		
臨床心理士	専門科目	選択		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60 時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 メールアドレス：sato.yuhki@fukushima-college.ac.jp			

<p><b>【授業の概要】</b></p> <p>これまでに設定した研究の問題と目的、方法に基づき、本研究を実施します。また、本研究のデータ分析を行い、論文の執筆を始めます。</p>	<p style="text-align: center;"><b>【授業の概要及び到達目標との対応項目】</b></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="text-align: center;">○</td><td style="text-align: center;">A</td><td>知識</td></tr> <tr><td></td><td style="text-align: center;">B</td><td>技術・技能</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">○</td><td style="text-align: center;">C</td><td>論理的思考力</td></tr> <tr><td></td><td style="text-align: center;">D</td><td>文章表現力</td></tr> <tr><td></td><td style="text-align: center;">E</td><td>表情及び身体表現力</td></tr> <tr><td></td><td style="text-align: center;">F</td><td>感性及び感動表現力</td></tr> <tr><td></td><td style="text-align: center;">G</td><td>協働能力</td></tr> <tr><td></td><td style="text-align: center;">H</td><td>まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力</td></tr> <tr><td></td><td style="text-align: center;">I</td><td>積極的発言力及びプレゼンテーション力</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">○</td><td style="text-align: center;">J</td><td>多様性への理解力、応用力</td></tr> <tr><td></td><td style="text-align: center;">K</td><td>課題対処力</td></tr> <tr><td></td><td style="text-align: center;">L</td><td>人間関係、対人関係構築力及び対話力</td></tr> </table>	○	A	知識		B	技術・技能	○	C	論理的思考力		D	文章表現力		E	表情及び身体表現力		F	感性及び感動表現力		G	協働能力		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	○	J	多様性への理解力、応用力		K	課題対処力		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
○	A	知識																																			
	B	技術・技能																																			
○	C	論理的思考力																																			
	D	文章表現力																																			
	E	表情及び身体表現力																																			
	F	感性及び感動表現力																																			
	G	協働能力																																			
	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力																																			
	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力																																			
○	J	多様性への理解力、応用力																																			
	K	課題対処力																																			
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力																																			

<p><b>【授業の到達目標】</b></p> <p>予備的研究の結果を整理する。</p> <p>本研究を実施する。</p> <p>本研究データ分析を行う。</p>	<p style="text-align: center;"><b>【授業の概要・到達目標との対応項目】</b> (受講して得られる力)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="text-align: center;">目標</td><td style="text-align: center;">J</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">目標</td><td style="text-align: center;">A</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">目標</td><td style="text-align: center;">C</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">目標</td><td></td></tr> </table>	目標	J	目標	A	目標	C	目標	
目標	J								
目標	A								
目標	C								
目標									

**【授業計画】**

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【復習・復習】
1～4	予備的研究結果の整理	プレゼンテーション ディスカッション	予備的研究の結果を踏まえた本研究計画の仕上げ

5～7	本研究の実施	ディスカッション	本研究実施のための資料準備 分析方法の復習
8～15	本研究のデータ分析と考察	プレゼンテーション ディスカッション	データ分析の実施と発表準備
<p>【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】</p> <p>目標 A、C および J について、研究の進捗状況を以下の点から評価します。</p> <p>本研究の実施状況（65 点満点）、それに対する理解と考察、論文の進行度合い（35 点満点）</p>			
<p>【教科書】使用しません。</p>			

# 心理学研究科臨床心理学専攻 授 業 計 画

2019 年度

授業科目名	臨床心理課題研究Ⅳ	授業形態・単位数	演習・2単位
		開講年次	2年次
担当教員	職名：教授 ふりがな 氏名：杉山 雅彦 すぎやま まさひこ	開講期	後期
		授業回数	時間割外
		期末試験の実施	無
授業に関する主な実務経験と期間	あかつき心理相談研究所 顧問・指導相談員（平成23年4月～平成27年3月）		
社会貢献としての委員会・職 等	福島県いじめ問題対策委員会・委員長 認知行動療法学会、常任編集委員、編集委員会副委員長		
最終卒業（終了）学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	筑波大学大学院博士課程心身障害学専攻 修了（教育学博士） 臨床心理士（臨床心理士資格認定協会）専門行動療法士（認知・行動療法学会） 認知・行動療法学会、行動分析学会、カウンセリング学会		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門科目	必修	
公認心理師	専門科目	選択	
臨床心理士	専門科目	選択	
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 メールアドレス：sugiyama.masahiko@fukushima-college.ac.jp.		

【授業の概要】 臨床心理課題研究Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを受けて、討論、スーパービジョンを交えながら修士論文の執筆を進めます。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】		
		A	知識
		B	技術・技能
	○	C	論理的思考力
		D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J	多様性への理解力、応用力
	○	K	課題対処力
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
修士論文を提出し、口頭試問に関する準備対応が出来る。	目標	C,K	

【授業計画】			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【復習・復習】
1～3	論文の進行とディスカッション	ディスカッション	【予習】研究(論文)の吟味 【復習】授業でのディスカッション

			ヨンの論点をまとめ研究計画をブラッシュアップする。
4～8	論文の進行と結果に関するディスカッション	ディスカッション	【予習】研究(論文)の結果に関する先行研究との比較 【復習】授業で挙げた課題について調査し、見通しを持つ。
9～15	論文の執筆進行と考察	ディスカッション	【予習】研究(論文)の分析と考察 【復習】授業でのディスカッションの論点をまとめる。
<p>【授業の到達目標に応ずる到達度の評価 (評価方法・基準)】</p> <p>目標 C および K について、論文が提出されたかどうかを主たる観点とし、その論文が最終的にどのような内容を含んでいるかに関して評価します。</p> <p>※最終的な評価は修士論文の評価と連動しています。</p>			
【教科書】使用しません。			



# 心理学研究科臨床心理学専攻 授 業 計 画

2019 年度

授業科目名	臨床心理課題研究Ⅳ		授業形態・単位数	演習・2 単位
			開講年次	2 年次
担当教員	職名：教授 ふりがな 氏名：岸 <small>きし</small> 良範 <small>よしのり</small>	開講期	後期	
		授業回数	15 回	
		期末試験の実施	無	
授業に関する主な実務経験と期間		愛知教育大学、茨城大学、各臨床心理相談室相談員他 (平成 12 年 4 月～平成 29 年 3 月)		
社会貢献としての委員会・職 等		日本臨床心理士資格認定協会理事、 専門職大学院認証評価判定委員会副委員長他		
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等		早稲田大学大学院文学研究科社会学専攻修士課程修了、文学修士 臨床心理士、心理臨床学会、箱庭療法学会、精神分析学会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門科目	必修	
臨床心理士		専門科目	選択	
公認心理師		専門科目	選択	
開講キャンパス	福島駅キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60 時間	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 メールアドレス：kishi.yoshinori@fukushima-college.ac.jp		

<b>【授業の概要】</b> 本科目では、臨床心理課題研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲに続き、修士論文の完成を目指します。研究結果に基づき、論文の執筆と必要に応じてデータの再分析を行います。	<b>【授業の概要及び到達目標との対応項目】</b>			
		A	知識	
		B	技術・技能	
	○	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	○	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
	○	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
<b>【授業の到達目標】</b>			<b>【授業の概要・到達目標との対応項目】</b> (受講して得られる力)	
データ分析の結果を考察できる。			目標	C
修士論文を完成させる。			目標	I,K

## 【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	本研究のデータ分析のまとめと考察	プレゼンテーション ディスカッション	データ分析 結果の解釈と考察
2	本研究のデータ分析のまとめと考察	プレゼンテーション ディスカッション	データ分析 結果の解釈と考察

3	本研究のデータ分析のまとめと考察	プレゼンテーション ディスカッション	データ分析 結果の解釈と考 察
4	修士論文の執筆	プレゼンテーション ディスカッション	考察をまとめ論 文を執筆する
5	修士論文の執筆	プレゼンテーション ディスカッション	考察をまとめ論 文を執筆する
6	修士論文の執筆	プレゼンテーション ディスカッション	考察をまとめ論 文を執筆する
7	修士論文の執筆	プレゼンテーション ディスカッション	考察をまとめ論 文を執筆する
8	修士論文の執筆	プレゼンテーション ディスカッション	考察をまとめ論 文を執筆する
9	修士論文の執筆	プレゼンテーション ディスカッション	考察をまとめ論 文を執筆する
10	修士論文の執筆	プレゼンテーション ディスカッション	考察をまとめ論 文を執筆する
11	修士論文の執筆	プレゼンテーション ディスカッション	考察をまとめ論 文を執筆する
12	修士論文の執筆	プレゼンテーション ディスカッション	考察をまとめ論 文を執筆する
13	修士論文の執筆	プレゼンテーション ディスカッション	考察をまとめ論 文を執筆する
14	修士論文の執筆	プレゼンテーション ディスカッション	考察をまとめ論 文を執筆する
15	口頭での研究発表	プレゼンテーション ディスカッション	発表練習と資料 作成
<p>【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標 C：論文における論理の明確さ(10 点満点)、データとそれに対する考察の明証性(80 点満点)</li> <li>・目標 I および K：プレゼンテーションにおける説明力(10 点満点)</li> </ul> <p>※最終的な評価は修士論文の評価と連動しています。</p>			
<p>【教科書】使用しません。</p>			

# 心理学研究科臨床心理学専攻 授 業 計 画

2019 年度

授業科目名	<b>臨床心理課題研究Ⅳ</b>		授業形態・単位数	演習・2 単位
			開講年次	2 年次
担当教員	職名：准教授 <small>ふりがな</small> 氏名：佐藤佑貴 <small>さとうゆうき</small>		開講期	後期
			授業回数	時間割外
			期末試験の実施	無
授業に関する主な実務経験と期間	福島学院大学大学院附属心理臨床相談センター相談員 (平成 19 年 4 月～現在)			
社会貢献としての委員会・職 等	福島市教育委員会 特別支援教育指導員			
資格・免許及び所属学会 等	群馬大学大学院教育学研究科修了、修士（教育学） 公認心理師、臨床心理士、小学校教員専修免許状			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門科目	必修		
公認心理師	専門科目	選択		
臨床心理士	専門科目	選択		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60 時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 メールアドレス：sato.yuhki@fukushima-college.ac.jp			

<p><b>【授業の概要】</b></p> <p>本科目では、臨床心理課題研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲに続き、修士論文の完成を目指します。研究結果に基づき、論文の執筆と必要に応じてデータの再分析等を行います。</p>	<p style="text-align: center;"><b>【授業の概要及び到達目標との対応項目】</b></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 20px;"></td><td style="width: 20px;">A</td><td>知識</td></tr> <tr><td></td><td>B</td><td>技術・技能</td></tr> <tr><td>○</td><td>C</td><td>論理的思考力</td></tr> <tr><td>○</td><td>D</td><td>文章表現力</td></tr> <tr><td></td><td>E</td><td>表情及び身体表現力</td></tr> <tr><td></td><td>F</td><td>感性及び感動表現力</td></tr> <tr><td></td><td>G</td><td>協働能力</td></tr> <tr><td></td><td>H</td><td>まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力</td></tr> <tr><td></td><td>I</td><td>積極的発言力及びプレゼンテーション力</td></tr> <tr><td></td><td>J</td><td>多様性への理解力、応用力</td></tr> <tr><td></td><td>K</td><td>課題対処力</td></tr> <tr><td></td><td>L</td><td>人間関係、対人関係構築力及び対話力</td></tr> </table>		A	知識		B	技術・技能	○	C	論理的思考力	○	D	文章表現力		E	表情及び身体表現力		F	感性及び感動表現力		G	協働能力		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力		J	多様性への理解力、応用力		K	課題対処力		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
	A	知識																																			
	B	技術・技能																																			
○	C	論理的思考力																																			
○	D	文章表現力																																			
	E	表情及び身体表現力																																			
	F	感性及び感動表現力																																			
	G	協働能力																																			
	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力																																			
	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力																																			
	J	多様性への理解力、応用力																																			
	K	課題対処力																																			
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力																																			
<p><b>【授業の到達目標】</b></p> <p>データ分析の結果を考察できる。</p> <p>修士論文を完成させる。</p>	<p style="text-align: center;"><b>【授業の概要・到達目標との対応項目】（受講して得られる力）</b></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 20px;">目標</td><td>C</td></tr> <tr><td>目標</td><td>D</td></tr> </table>	目標	C	目標	D																																
目標	C																																				
目標	D																																				

**【授業計画】**

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修 <b>【復習・復習】</b>
1～4	予備的研究結果の整理	プレゼンテーション ディスカッション	予備的研究の結果を踏まえた本研究計画の仕上げ
5～7	本研究の実施	ディスカッション	本研究実施のための資料準備 分析方法の復習

8～15	本研究のデータ分析と考察	プレゼンテーション ディスカッション	データ分析の実 施と発表準備
<p><b>【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】</b></p> <p>目標 C および D について、研究の進捗状況を以下の点から評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・論文における論理の明確さ（20 点満点）</li> <li>・データとそれに対する考察の明証性（70 点満点）</li> <li>・プレゼンテーションにおける説明力（10 点満点）</li> </ul> <p>※最終的な評価は修士論文の評価と連動しています。</p>			
<p><b>【教科書】</b> 使用しません。</p>			